

令和 7 年 4 月 13 日
近畿地方整備局営繕部

大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事における
ユニバーサルデザインワークショップについて

1. 経緯

- ・令和7年4月13日から令和7年10月13日まで大阪・夢洲で開催される大阪・関西万博の各施設のうち、日本館の設計、施工を、経済産業省からの支出委任により当局が実施した。
- ・日本館は、「いのちと、いのちの、あいだに -Between Lives-」をテーマにした施設として計画され、万博の主要施設として位置づけられている。また、大阪・関西万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマは、人間一人一人が、自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮させることが示されている。
- ・このような考え方を反映して、「古来より育まれてきた伝統的な自然観(調和・持続可能性等)」、「日本らしさを世界に発信する、人と人がつながる 誰もとり残さない 共創の世界を創り出す」というコンセプトのもとに、誰もが使いやすいユニバーサルデザイン(UD)を具現化するパビリオンとするための設計、施工をめざすこととした。
- ・UDワークショップは、「施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン【改定版】(民間パビリオン用)」(公益社団法人2025年日本国際博覧会協会)に示された「障がい当事者等の参画による評価と意見反映～ユニバーサルデザインワークショップの積極的奨励～」に基づき、多くの障がい当事者および学識経験者の参画による「大阪・関西万博日本館(仮称)UDワークショップ」を設立した。
- ・このUDワークショップにおいて、基本設計段階から障がい当事者および学識経験者の意見を設計・施工内容に反映した。

2. UDWS の実施

(1) 委員、オブザーバー

多様性確保の観点から、学識経験者をはじめ実際に障がいを持ちながら活動している有識者で構成。また、障がいだけでなく、LGBTQ や子育て支援の有識者もアサインし、広義的なユニバーサルデザインについて議論した。

1) 設計段階

学識経験者7名、障がい当事者25名、計32名

2) 施工段階

学識経験者3名、障がい当事者22名、計25名

(2) 実施方法

テーマ毎にワークショップ形式で意見交換

3. 実施スケジュール

(1) 設計段階

- ・令和4年 6月 7日(火) 第1回 UDWS 日本館の概要説明
- ・令和4年 7月 12日(火) 第2回 UDWS 第3回以降 WS のテーマ設定
- ・令和4年 8月 8日(月) 第3回 UDWS 移動・休憩検討会
- ・令和4年 8月 9日(火) 第4回 UDWS トイレ検討会
- ・令和4年 8月 30日(火) 第5回 UDWS 誘導検討会
- ・令和4年 12月 12日(月) 第6回 UDWS とりまとめ

(2) 施工段階

- ・令和5年 12月 19日(火) 第1回 UDWS 施工段階 UDWS の目的とスケジュール
- ・令和6年 1月 16日(木) 第2回 UDWS スロープ・誘導関係のモックアップ検証
(床材、手すり・レールガイド・ラインガイドの設置位置・形状など)
- ・令和6年 6月 18日(水) 第3回 UDWS トイレ関係のモックアップ検証の事前説明
- ・令和6年 6月 25日(水) 第3回 UDWS トイレ関係のモックアップ検証
(内寸、仕上げ材料、配色、視覚障がい者用誘導ブロック、光警報(フラッシュランプ)設置位置など)
- ・令和6年 11月 28日(金) 全体会議 UDWS のとりまとめ
- ・令和7年 2月 27日(木) 最終報告会 報告書の報告会

4. UDWS の意見を踏まえ改善した主な項目

- ・別添の「大阪・関西万博日本館(仮称)施工段階 日本館 UD ワークショップ報告書」を参照

以上

大阪・関西万博日本館(仮称)施工段階

日本館UDワークショップ報告書

検証における意見と施工段階への反映



令和7年2月

<目次>

1. 意見の概要

2-1. スロープ・誘導設備

(1) 意見と改善事項

(2) 建物入り口～建物内の通路のイメージ

(3) UDWSの意見等に基づく施工内容

- ・スロープ勾配、材質、色
- ・手すり
- ・レールガイド、ラインガイド、点字ブロック

2-2. トイレ

(1) 意見と改善事項

(2) UDWSの意見等に基づく施工内容

- ・ゾーンA/C 従来型のトイレ
- ・ゾーンB 個室型トイレ
- ・ゾーンD 大きめトイレ、ファミリールーム
- ・手洗いの手すりの間隔
- ・個室型トイレ 手洗いカウンターの形状
- ・バリアフリートイレ内の大型ベッド、照明、鏡、フック、扉
- ・壁付リモコン類と壁のコントラスト
- ・光警報装置（フラッシュランプ）の位置
- ・カームダウン・クールダウンルーム

検証における意見と施工段階への反映

1. 意見の概要

第1回から第4回のUDワークショップでいただいた意見の数を施設別、項目別に集計した値を下記に示す。

カテゴリー	No.	項目	件数
基本的考え方、会場全体の事項など	1	会場全体に係る事項	2
	2	UDコンセプト	0
	3	アクセス交通	0
	4	動線計画	0
	5	建物全体	2
通路・スロープ	6	手すり	7
	7	ドア	0
	8	待ち行列	0
	9	出入口	0
	10	床素材	9
	11	スロープ/回廊	13
	12	レールガイド、ラインガイド	23
	13	照明・音設備/コントラスト	0
	14	休憩用設備、屋根/雨対策	1
	15	通路幅	0
	16	踊場	0
トイレ	17	配慮レーン	0
	18	トイレ・ファミリースペース内の情報設備・情報提供	4
	19	トイレ・ファミリースペース内設備、レイアウト等	37
	20	トイレ・ファミリースペースの分散配置、便器数	3
	21	補助犬用スペース(トイレ)	0

カテゴリー	No.	項目	件数	
授乳/カームダウンスペース	22	休憩スペース、カームダウン・クルーダウン,授乳スペースな	7	
	誘導・案内	23	サイン・案内・標示	6
		24	視覚障がい者用ブロック	9
		25	手話	1
		26	情報伝達方法	6
		27	視覚障がい者用アプリ等	7
		28	聴覚障がい者用アプリ等	0
		29	事前施設情報提供	7
		30	音声ガイドでの説明	3
		31	非常時の設備・情報提供	7
		32	避難経路・スペース	5
避難経路	運営・展示	33	運営の留意点/スタッフ研修	16
		34	予約システム/入場者数	0
		35	車いす等貸し出し	0
		36	展示内容/設備等	0
		37	介助犬対応	1
その他	38	その他	6	
	合計		182	

検証における意見と施工段階への反映

2-1. スロープ・誘導設備

(1) 意見と改善事項

<スロープ、手すり>

確認事項		主な意見	施工上の改善事項
スロープ・踊場	勾配	登り・下りの負担度合いなど	・勾配(1/20)については問題ない。
	床材の材質	すべり具合、通行のスムーズさ	・三和土のざらつきは歩行上の抵抗・負担を感じる。 ・表面の質感の違いは分かりにくい。
		濡れた場合のすべり具合	・濡れた時はグリップが強くなり引っかかる。 (特に踊り場のN55粗度A)
床材の色	スロープ部分と踊り場の色の違い	・踊り場とスロープの色の差はほぼ分からない。	
手すり	設置の必要性	誘導設備としての有効性	・手すりがあることで歩く方向を見失わない。 ・手すりは必要である使いやすいことが必要。
		手すりによる移動時の安全性確保など	
	材質	手すりのすべりにくさ	・滑りにくい材質とする。木製の検討も必要。
形状・設置位置	手すりの太さ・高さ	・径が太い(握りにくい)。 ・位置が少し高いと感じた。高さは80cm程度がよいのではないか。 ・車いすのハンドルと干渉しないよう標準寸法を押しえたうえで高さを決定してほしい。	
			夏場の暑さ対策も考慮しフィルムシート貼りとする。木製はコスト高、汚れを考慮し採用しなかった。
			・手すりの径を42.7mmから38mmに変更する。 ・高さは85cmから80cmに変更。

検証における意見と施工段階への反映

<誘導設備>

確認事項			主な意見	施工上の改善事項
レールガイド	突起の高さ(5cm)	白杖を使った時の分かりやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ・多くは現在の高さ(5cm)が良い。 ・高さ(5cm)についてはもう少し低くてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市福まち条例ガイドラインで、手すり子形式の場合は基部を5cm以上立ち上げることが望ましいとされているので、5cmのままとする。(変更なし)
	設置位置	使いやすさ(手すりとの位置関係など)	<ul style="list-style-type: none"> ・手すりから奥にあるので、白杖を当てるのに使いにくい、使わない。 ・視覚障害者にとっては、壁と同じ感覚で使える。色で認識するなら濃い色が良い。 	
ラインガイド	突起の高さ(3mm)	白杖を使った時の分かりやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由者や高齢者は3mmでもつまづく。 ・視覚障がい者にとっては3mmで何とか分かるがもう少し高いと良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2列のラインに見直す(ラインの隙間に白杖を当てるようにして誘導する)。 ・視覚障がい者が判別できる最低限の低さ:3mmのままとする。(点字ブロックの突起高さ以下とする) ・溝の幅は5mmとする。
		通行時の突っかかりなど	<ul style="list-style-type: none"> ・ひっかかりとなることを避けるため、素材を変えた帯状のもので誘導。 	
視覚障がい者用誘導ブロック	色	色の識別しやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ・グレーでは床材と色の差がわからない。黄色でよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色は黄色で統一する。 <p>(敷設範囲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①敷地境界線～主たる案内設備: 線状・点状ブロックで誘導 ②主たる案内設備～建物入り口(待ち行列終点): 係員が誘導 ③建物内: ・円形回廊は手すり、レールガイド、ラインガイドで誘導 ・展示エリア内は係員が誘導 ④建物出口～敷地境界線:係員が誘導
	敷設範囲	必要性の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・1/20勾配スロープであれば踊り場に点状ブロックの敷設は不要。 ・万博内の他施設の状況を確認した上で方針を整理すべき。 	

<安全確保(警告)>

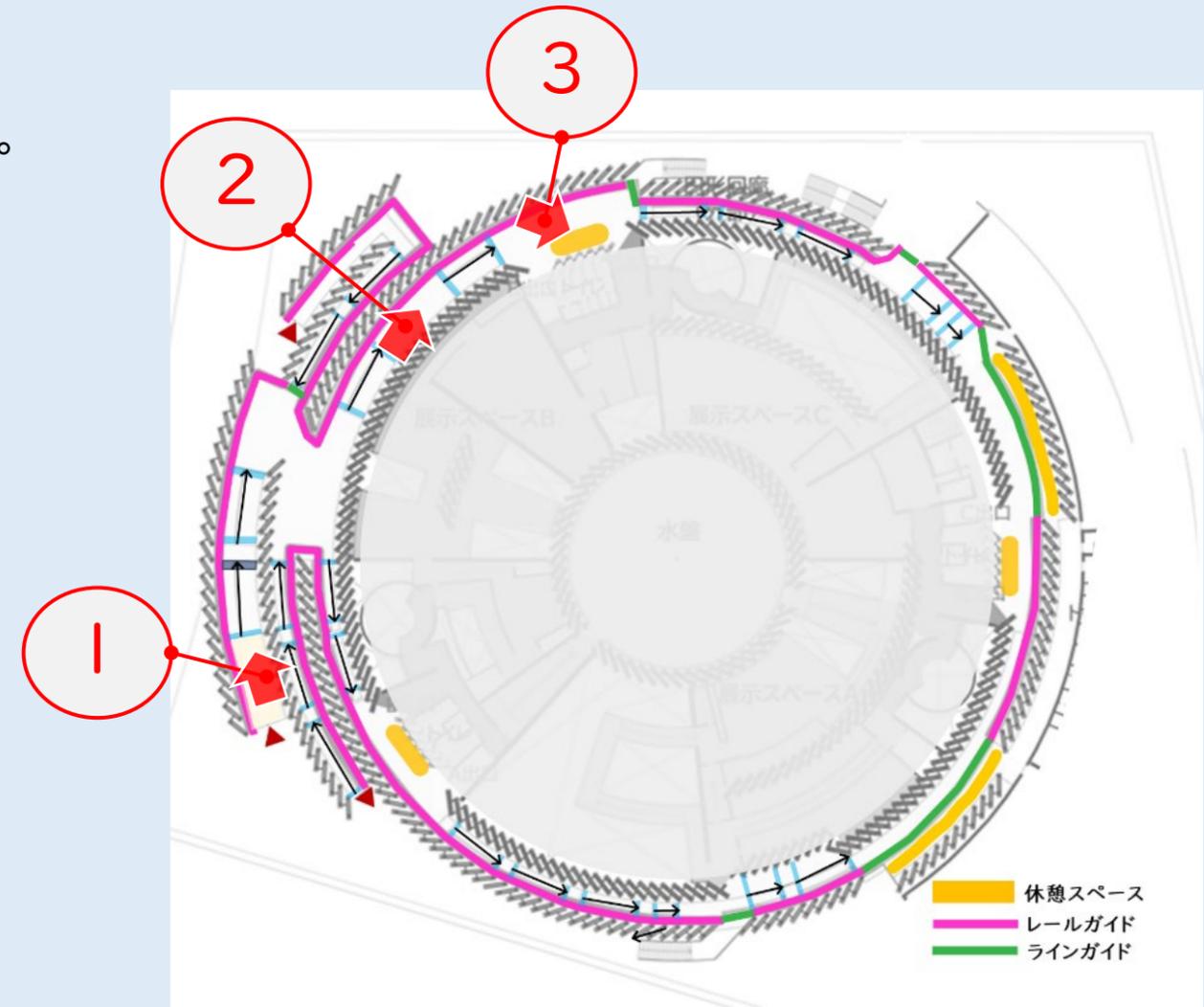
視覚障がい者用誘導ブロック	敷設範囲	必要性の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・点状ブロックを必要な箇所に設置。 	避難階段、トイレの触知図案内板の床に点状ブロックを敷設。
---------------	------	--------	---	------------------------------

検証における意見と施工段階への反映

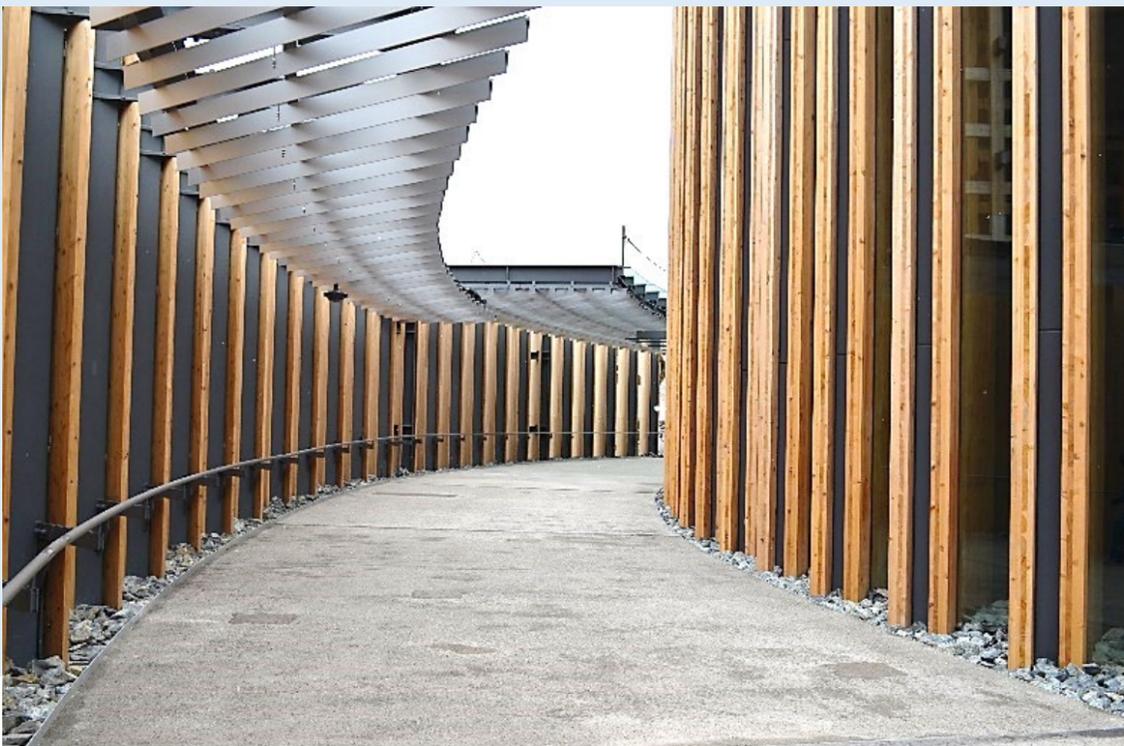
(2) 敷地建物入り口～建物内の通路のイメージ

・建物入口から回廊、展示エリア入口の施工後の写真を示す。

① スロープ入口付近



② 回廊の通路部分



③ 展示エリア出入口付近



検証における意見と施工段階への反映

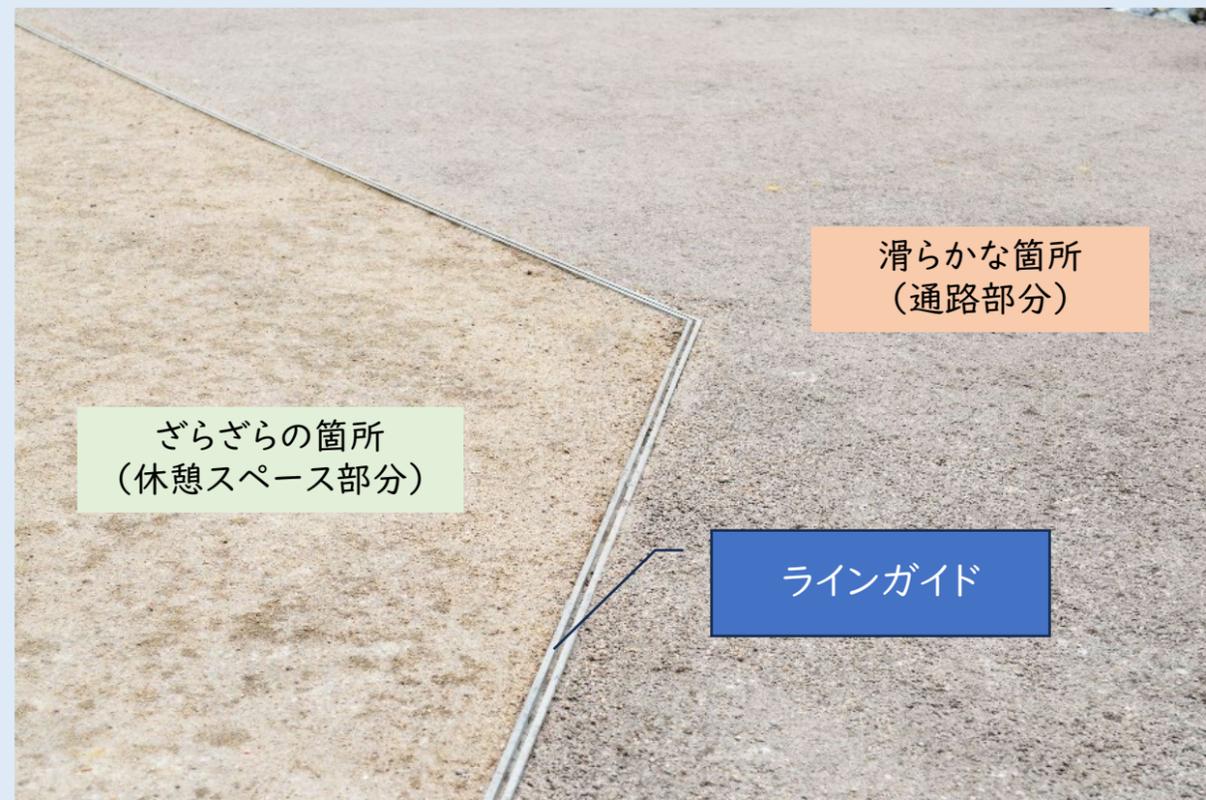
(3) UDWSの意見等に基づく施工内容

●スロープ勾配、材質、色

ポイント: 多様な人が一緒に同じ空間を快適に移動できるように緩やかなスロープとし、床の材質、色の工夫を行っている

施設・設備等	ご意見	施工内容 (UDへの配慮事項)
勾配	・5%で通行に問題はない(参加者共通意見)。	・スロープの勾配は設計当初から5%を前提として、多様な人が同じように使いやすくしている。
床材	・三和土のざらつきは足が不自由な人、高齢者等にとって、つまづきやすくなる。	・床材は自然性が高く、リサイクルしやすい三和土を採用している。三和土の表面を滑らかにし、車いす、高齢者、片麻痺の人などがつまづかないようにする。
床の色	・スロープと踊り場の微妙な色の違いや表面仕上げの違い(なめらか・ざらざら)は分かりにくい。	・設計段階は5%勾配のスロープと踊り場を三和土の表面仕上げで区別するよう計画していた(点状ブロックの敷設は不要と確認していた)。 ・施工段階の検証の結果、表面仕上げの違いではなく、スロープの上下端に濃い色の三和土をライン状に入れることで視認できるようにする。

床材 (滑らかな箇所とざらざらの箇所)



床の色、ライン



検証における意見と施工段階への反映

●手すり

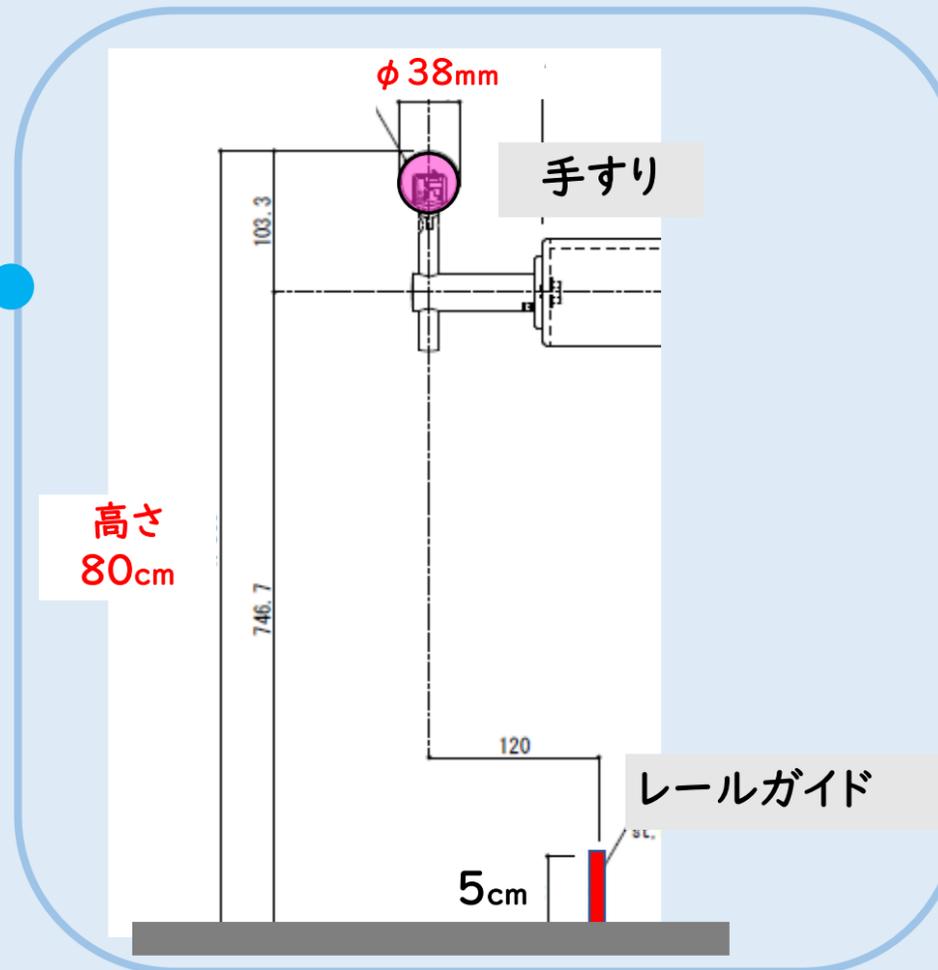
ポイント:誰もが使いやすい手すりとするための高さ、太さとし、誘導支援のためのレールガイドと併せた連続性の確保

施設・設備等	ご意見	施工内容(UDへの配慮事項)
手すり	・モックアップの手すり位置が高い。少し太い	・手すりは、握りやすさ、使いやすさを考慮して高さ、太さを調整。 高さを5cm下げ、80cm、直径を42.7mmから38mmに変更
手すりの材質	・滑りにくい材質とする。木製の検討も必要。	・夏場の暑さ対策も考慮しフィルムシート貼りとする。木製はコスト高、汚れを考慮し採用しなかった。

注) 円形回廊の手すりについては、身体を支える役目のほかに、レールガイド、ラインガイド(後述)と併せて視覚障がい者の誘導のための役割をもっており、回廊内に連続して敷設している。



● レールガイド、手すり



手すりの拡大写真



検証における意見と施工段階への反映

● レールガイド、ラインガイド、点字ブロック

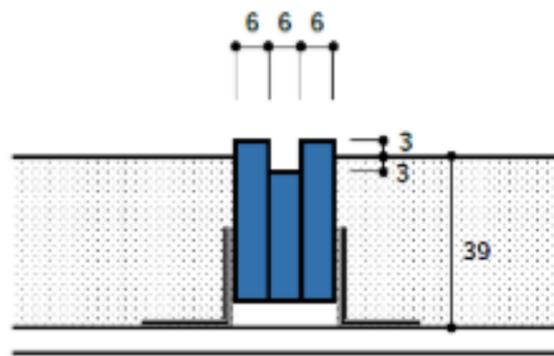
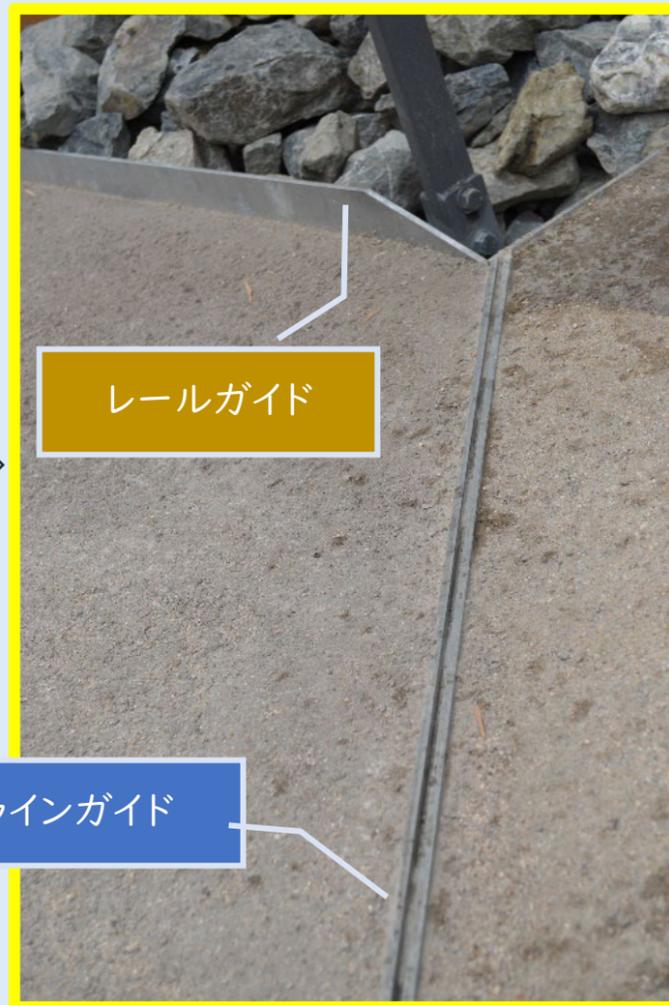
ポイント:視覚障がい者誘導ブロックに代わる視覚障がい者の誘導機能を持たせた、新たな「レールガイド」、「ラインガイド」設置の試み

【誘導機能の確保】

- ・日本館の円形回廊では、視覚障がい者が一人できても移動が可能な移動空間をめざして、誘導ブロックに代わる誘導機能を持たせた、新たな「レールガイド」、「ラインガイド」設置を試みている。
- ・「レールガイド」は、円形回廊にそった手すりの下部に、高さ5cmの金属の板を設置し、視覚障がい者が白杖を添わせて移動方向を確認できるものとしている。
- ・「ラインガイド」は、レールガイドが途切れる通路の渡りの部分などに、高さ3mmの金属の突起を2列で敷設し、連続性を確保する。

【安全確保(警告)】

- ・避難階段、トイレの触知図案内板の床に点状ブロックを敷設。
- ・スロープについては、視覚障がい者から、5%勾配であれば踊り場との境に点状ブロックは不要、とのご意見にもとづき点状ブロックは設置せずに、弱視者などのために、スロープの端の色を変えることで視認を高めることとしている。



トイレ出入口の触知図下の警告ブロック



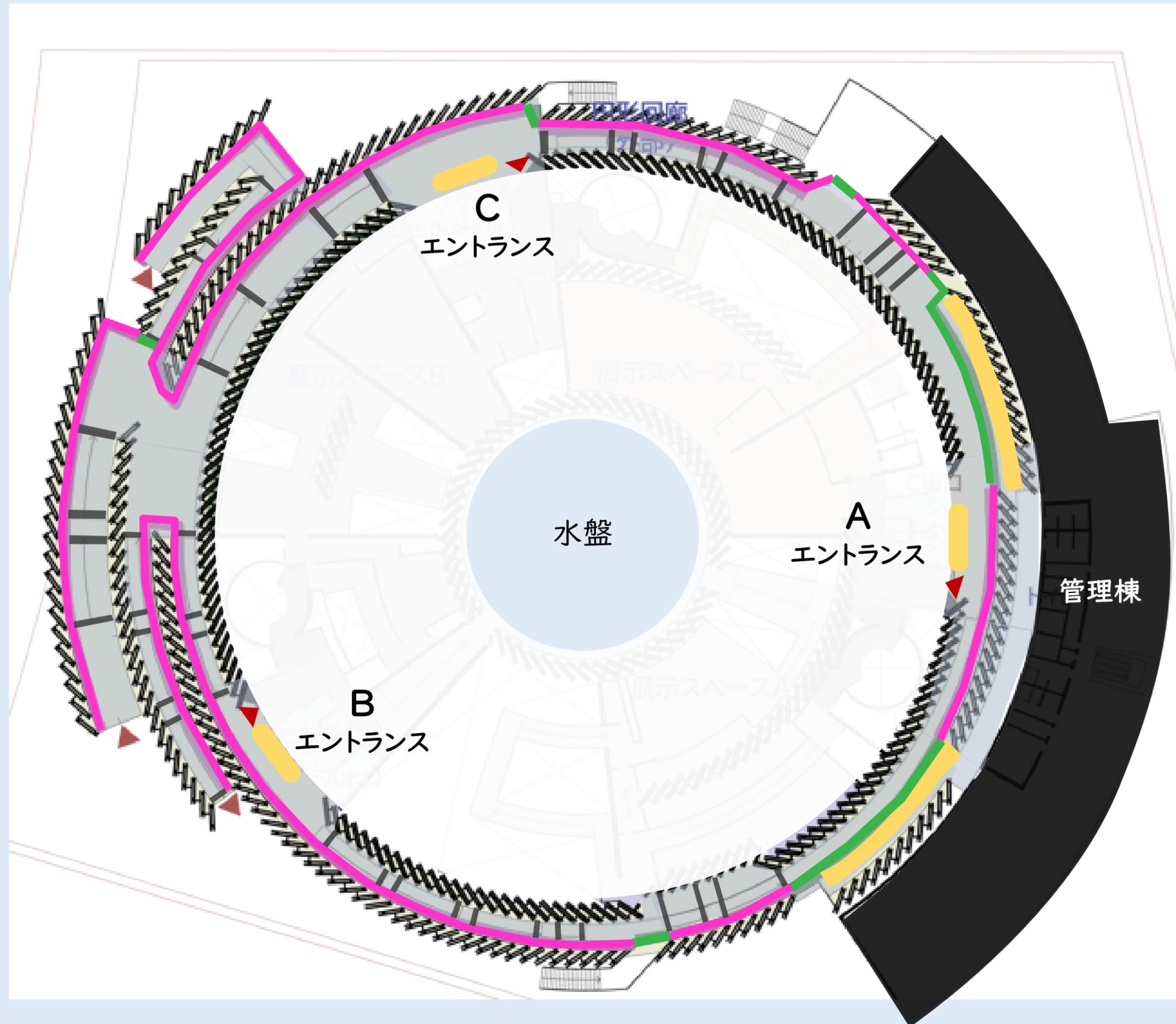
避難階段の警告ブロック



検証における意見と施工段階への反映

●床面の色、レールガイド、ラインガイドの設置位置

- 休憩スペース
- レールガイド
- ラインガイド
- スロープ上下端



検証における意見と施工段階への反映

2-2 トイレ

(1)意見と改善事項

<ゾーンA/C、ゾーンD:バリアフリートイレ>

チェック項目		主な意見	施工上の改善事項
移動	入口から便器までの移動 大型ベッドの位置の確認	・大型ベッドが開いたままの状態だと出入口が狭くなり、車いす利用者は入ることができない。	・ゾーンA, Cのバリアフリートイレについては、便器(配管)の位置や扉位置の変更は寸法上余裕がなく変更が難しい。 ・ゾーンDのバリアフリートイレ(大)については、大型ベッドを開いた状態でも可能な限り有効幅が確保できるようにレイアウト調整を行った。
	押しボタンなどの配置、形状の確認 押しボタンなどの認識	・洗浄ボタンの形状(凹凸)が分かりにくい。 ・位置について、座った状態でもう少し前側(便器から離れる側)に変更することができないか。 ・非常呼出ボタンが他のボタンに近すぎて、間違っって押ししまいそう。	・洗浄ボタン:協賛品対象であるため種類の変更は対応できない。 ・呼出ボタン:日本館周辺施設と種類や配置を統一し、使用上の混乱を防ぐ。(変更なし)
設備関係	大型ベッド跳ね上げ	・折り畳み式ベッドは車いす利用者は操作できない。	・操作しやすい跳ね上げ式に変更。
	照明	・ベビーベッドの直上に照明があると乳幼児の目に直接光が入ることが懸念される。	・光が直接目に入らない位置に調整。
	洗面台の手すり	・肢体不自由者はカウンターに肘をつきながら手を洗うため、ベッセル式洗面器だと縁が当たって痛い。	・手すりの間の幅を550mmに変更し、肘を支持できるように改善。
	鏡	・車いす利用者も全身が見える鏡を設置してほしい。	・車いす対応便房に姿見を設置。(計5箇所)

<ゾーンB 個室型 男女共用便房>

チェック項目		主な意見	施工上の改善事項
移動	入口から便器までの移動	・手洗い器が大きい。 ・カウンターが大きく、通行の妨げになる。 ・カウンターの角が身体や子どもの頭部に当たる危険性がある。	・手洗いカウンターの形状を台形から丸みのある三角形に変更し、トイレブース内の使い勝手を改善。
設備関係	紙巻き器やリモコンの位置を確認	・紙巻き器の位置が奥過ぎる、低すぎる。	・手洗いカウンターの形状見直しと併せて調整。

検証における意見と施工段階への反映

<ゾーンB 個室型 車いす用簡易便房>

チェック項目		主な意見	施工上の改善事項
設備関係	押しボタンなどの配置、形状の確認 押しボタンなどの認識	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄ボタンの形状(凹凸)が分かりにくい。 ・位置について、座った状態でもう少し前側(便器から離れる側)に変更することができないか。 ・非常呼出ボタンが他のボタンに近すぎて、間違っって押ししまいそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄ボタン:協賛品対象であるため種類の変更は対応できない。 ・呼出ボタン:日本館周辺施設と種類や配置を統一し、使用上の混乱を防ぐ。(変更なし)
	鏡の高さを確認(上端・下端)	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす利用者も全身が見える鏡を設置してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす対応便房に姿見を設置。(計5箇所)

<トイレ共通>

チェック項目		主な意見	施工上の改善事項
設備関係	フック位置	<ul style="list-style-type: none"> ・出入口付近にあると使いやすい(目が不自由な方も慣れている)。 ・当たっても危なくないフック形状が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出入口扉のブース内側に統一して設置。 ・安全に配慮した形状とする。
扉	仕様の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす対応便房の引き戸には全開時ストッパーはついているのか。 ・扉はなるべく軽い力で操作できることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全開時ストッパーあり。 ・軽い力(UDガイドラインの30N以下)で開閉可能。 ・バリアフリートイレの内部側に補助手すりを設置。
その他	通路	<ul style="list-style-type: none"> ・耳が不自由だと、通路がL字型配置だと人とぶつかる可能性がある(個別トイレ前の通路等)。曲面ミラーで視認できると安心。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡は設置なし。(理由:通路幅がある程度広く、T字路部に誘導スタッフを配置するため)

<カームダウン・クールダウン>

チェック項目		主な意見	施工上の改善事項
電気設備関係	内装の仕様	<ul style="list-style-type: none"> ・壁は緩衝材のような柔らかい素材にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔らかいクッション材を採用。色はウォーム系の薄いグレーとする。
	照明	<ul style="list-style-type: none"> ・調光ができる照明を設置してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の利用者が調光可能な照明を設置。

検証における意見と施工段階への反映

<授乳室>

チェック項目		主な意見	施工上の改善事項
設備関係	照明	・ベビーベッドの直上に照明があると乳幼児の目に直接光が入ることが懸念される。	・光が直接目に入らない位置に調整。

<サンプル確認>

チェック項目		主な意見	施工上の改善事項
床面点字の認識	3種類について確認	・日本館のトイレの広さだと、ガイドライン対応の床面点字は不要ではないか。また、色彩計画でブース扉や衛生器具と床壁のコントラストをつけているため、ある程度認識できると思われる。	・ご意見をもとに床面点字は設置しない。
非常用フラッシュランプ（光警報）	光の点滅の認識	・設置位置について、ブース内だけでなく通路にも設置が必要。 ・外光に負けて光警報に気づかないのでは。光度や目に入る位置の検討が必要。 ・光が強いと見にくい人もいる。フェードアウト・フェードインできるような光があれば良い。 ・光の点滅の意味が理解できるように、字幕など文字情報とセットで非常時であることを示してほしい。	・トイレブースと通路、カームダウンクールダウンルーム、授乳室にフラッシュランプを設置。 ・柔らかく光るフラッシュランプは現時点存在しない。 ・非常時にはスタッフによる避難誘導がなされるため、文字情報による表示は行わない。 ・フラッシュランプ点灯の説明文を掲示。
扉の鍵	形状の確認	・ラバーがつくと握りやすい。 ・もう少し鍵の持ち手が長いと使いやすい。 ・開閉の表示窓（赤青）がもう少し大きいと分かりやすい。	・変更なし
色見本	壁付リモコン類と壁のコントラスト	・もう少しリモコン類と壁色にコントラストをつけてほしい。	・コントラストを確保できるよう調整。
非常呼出ボタン	サンプルの提示	・特に問題ないが点字が少し薄い。 ・洗浄ボタンと非常呼出ボタンの区別がつきにくい。呼出ボタンは四角で認識されている（目が不自由な方）。 ・呼出ボタンが小さいと押しにくい。（車いす利用者）	・日本館周辺施設と種類を統一し、使用上の混乱を防ぐ。（変更なし）

検証における意見と施工段階への反映

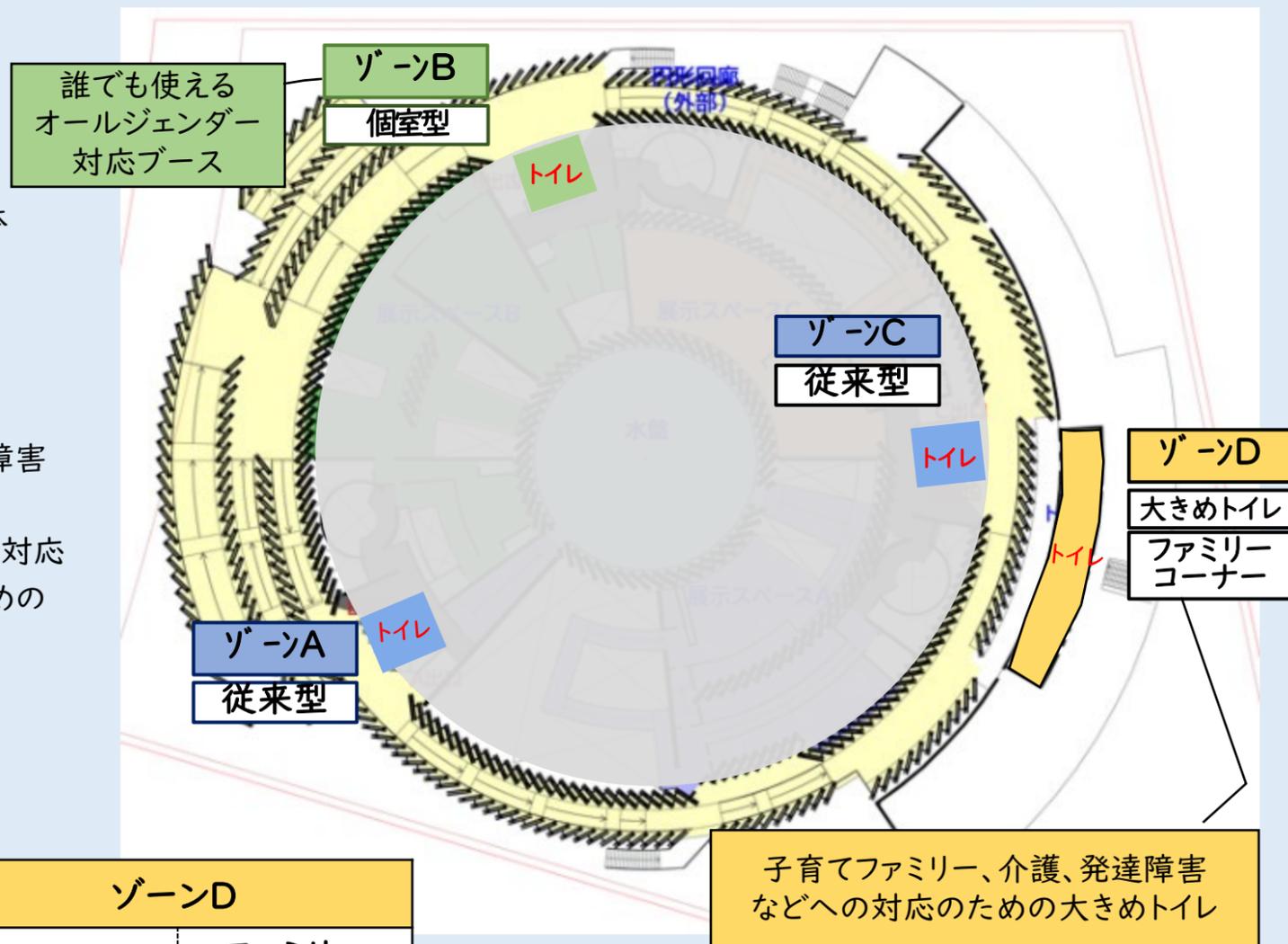
●トイレの基本的な考え方

①分散型配置と多様なニーズへの対応

- ・『できる限り多くの人が利用しやすいトイレ』を目指して、タイプの違うトイレを用意し、全体として多様な人が使いやすいバランスで配置。
- ・日本館周辺エリアのトイレが受け持つ機能も考慮したタイプを計画。

②新たなニーズへの対応

- ・近年のニーズであるオールジェンダー対応をB(個室型)、子育て・ファミリー対応や発達障害対応をD(大きめトイレ)などで計画。
- ・展示スペース出入口の3つのゾーンは、従来型のトイレ(A,C)を2か所、オールジェンダー対応のトイレ(B)を1か所とした。ファミリーコーナー(D)には、介護利用、ベビーカー用に大きめのトイレを配置。



●トイレ ゾーンごとの機能配置

ゾーン		ゾーンA・C	ゾーンB	ゾーンD	
タイプ		従来型	個室型	大きめトイレ	ファミリーコーナー
一般便房		●			
小使用便房			●		
男女共用便房			●	●	
車いす対応	バリアフリートイレ	●			
	簡易型		●		
	バリアフリートイレ(大)			●	
オストメイト対応		●	●	●	
介護対応(大型ベット)		●		●	
ベビーカー対応		●	●	●	
休憩施設(カームダウン)、授乳施設					●

注) バリアフリートイレ

: 車いす対応の直径150cmのスペースを確保

簡易型

: 車いす対応の広さ130cm×130cm程度

バリアフリートイレ(大)

: 車いす対応の直径180cmのスペースを確保

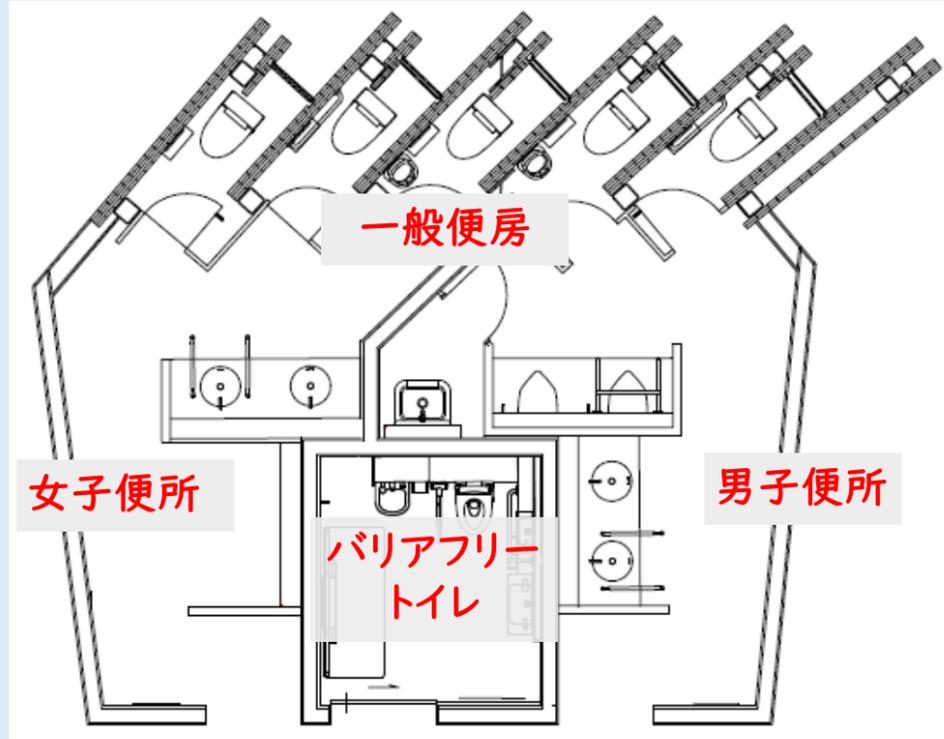
検証における意見と施工段階への反映

●トイレのタイプの名称(施工段階)

<従来型>

ゾーンA

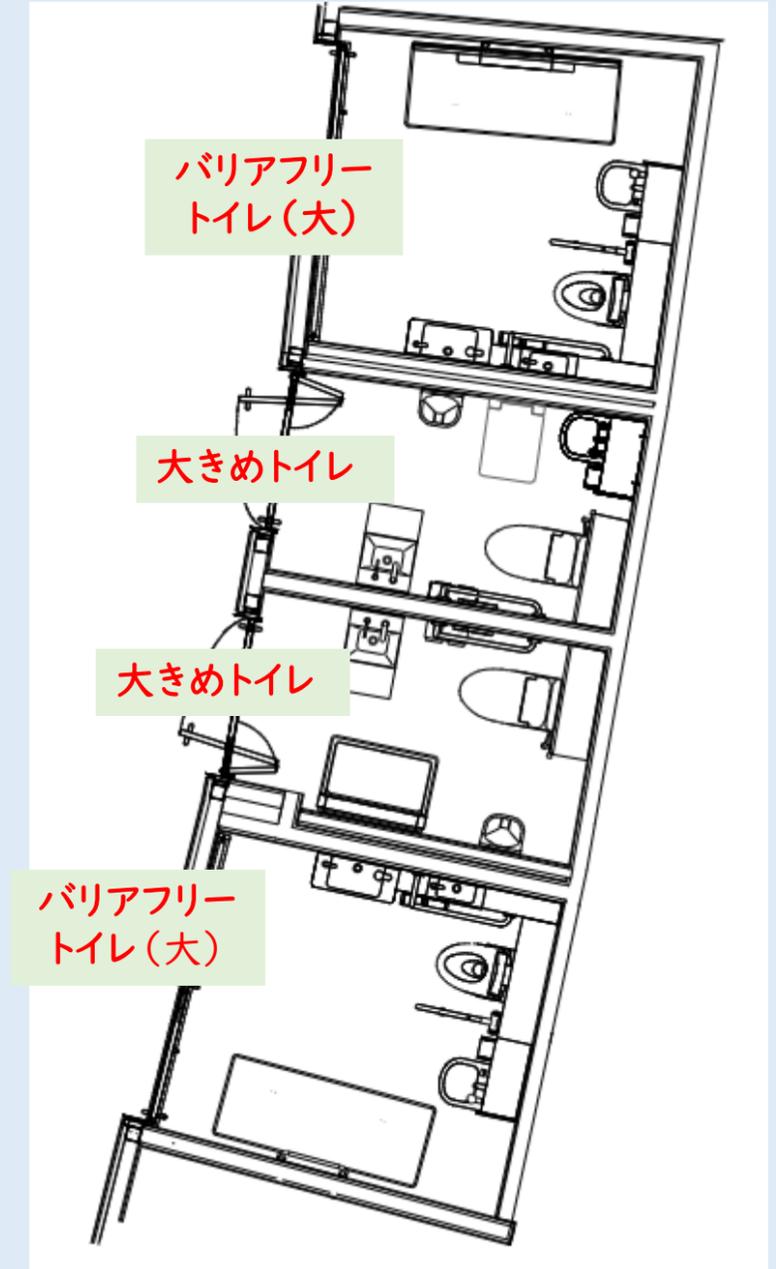
ゾーンC



※設計段階からの施工的な要因による変更点
・手すり、紙巻き器配置(左壁から右壁に変更)

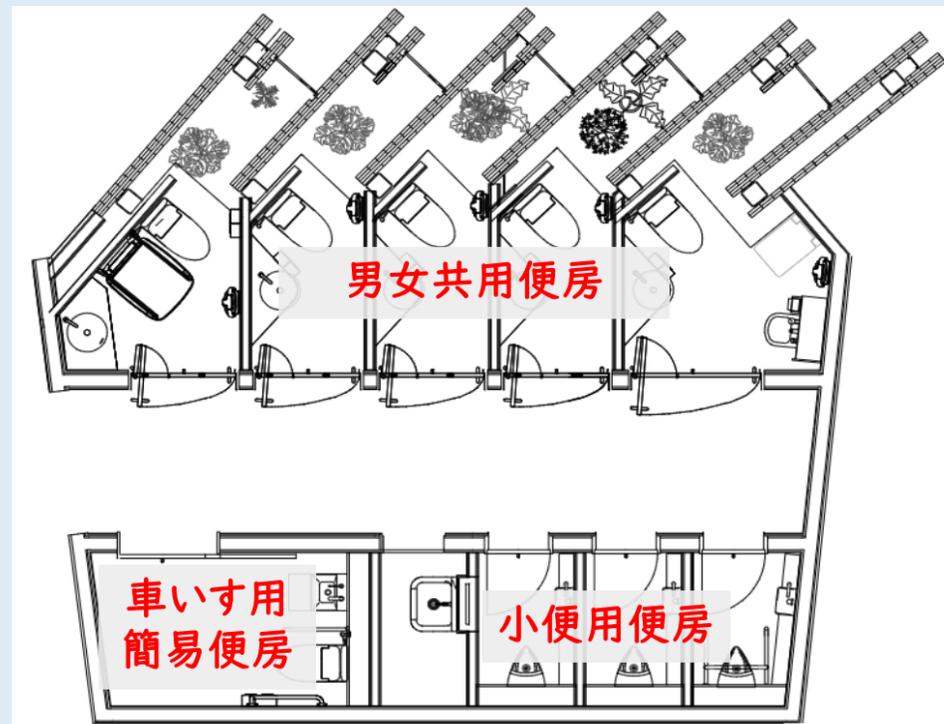
<大きめトイレ>

ゾーンD



<個室型>

ゾーンB



※設計段階からの施工的な要因による変更点
・小便器扉種類(折り戸から開き戸に変更)

検証における意見と施工段階への反映

(2) UDWSの意見等に基づく施工内容

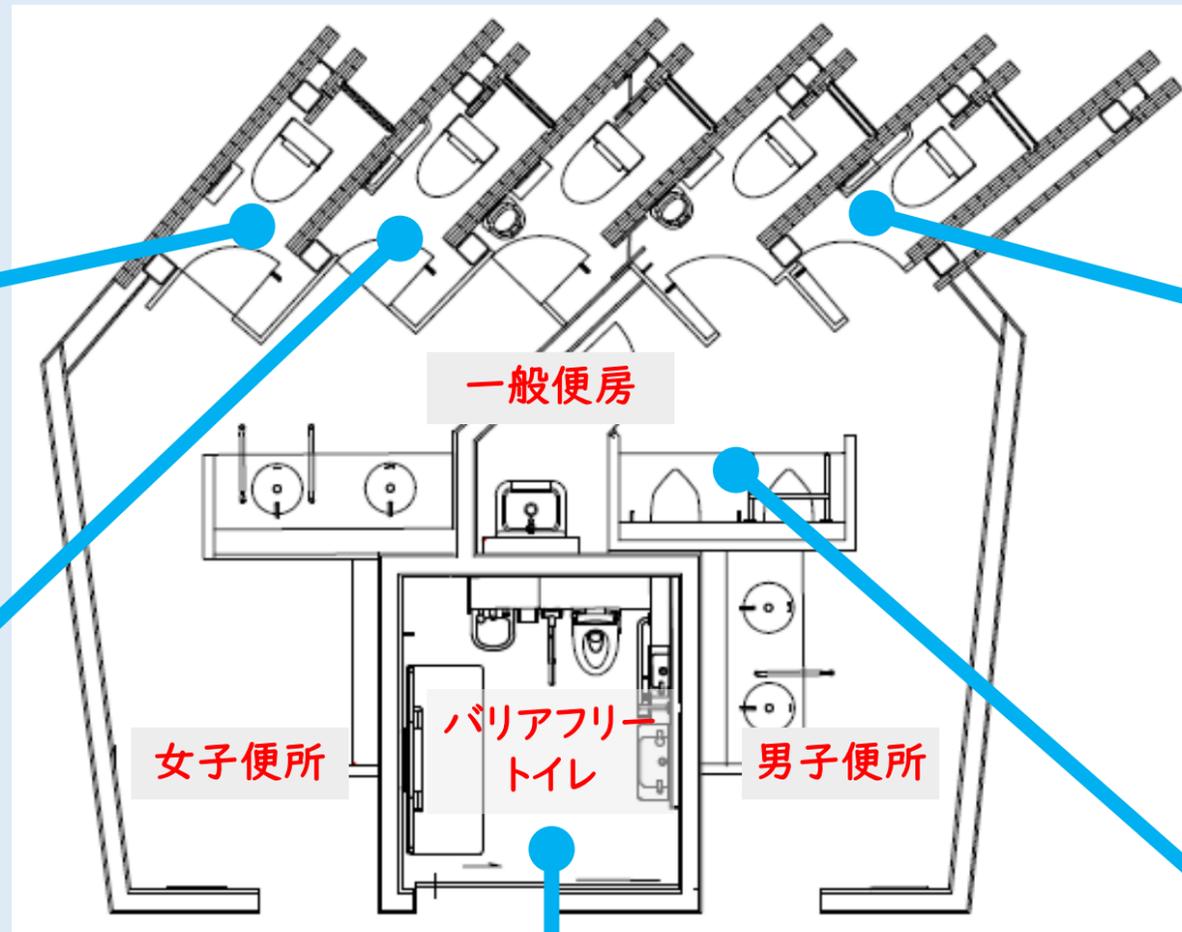
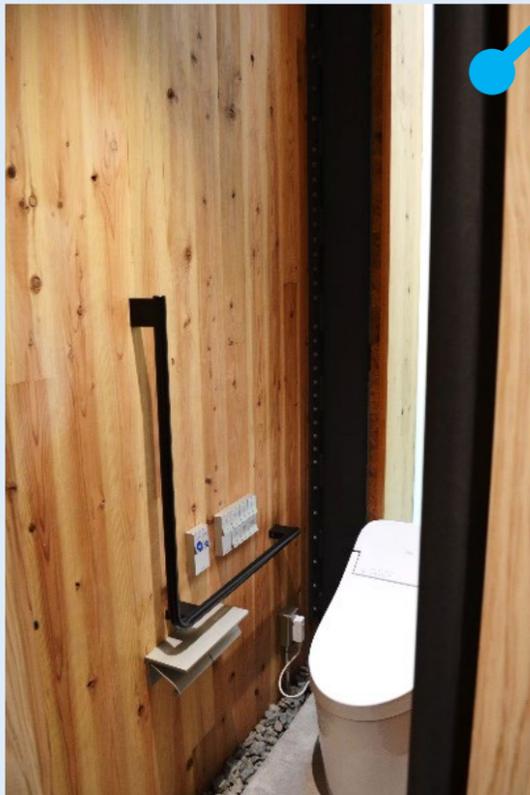
1) ゾーン別の施工写真

ゾーンA/C 従来型のトイレ

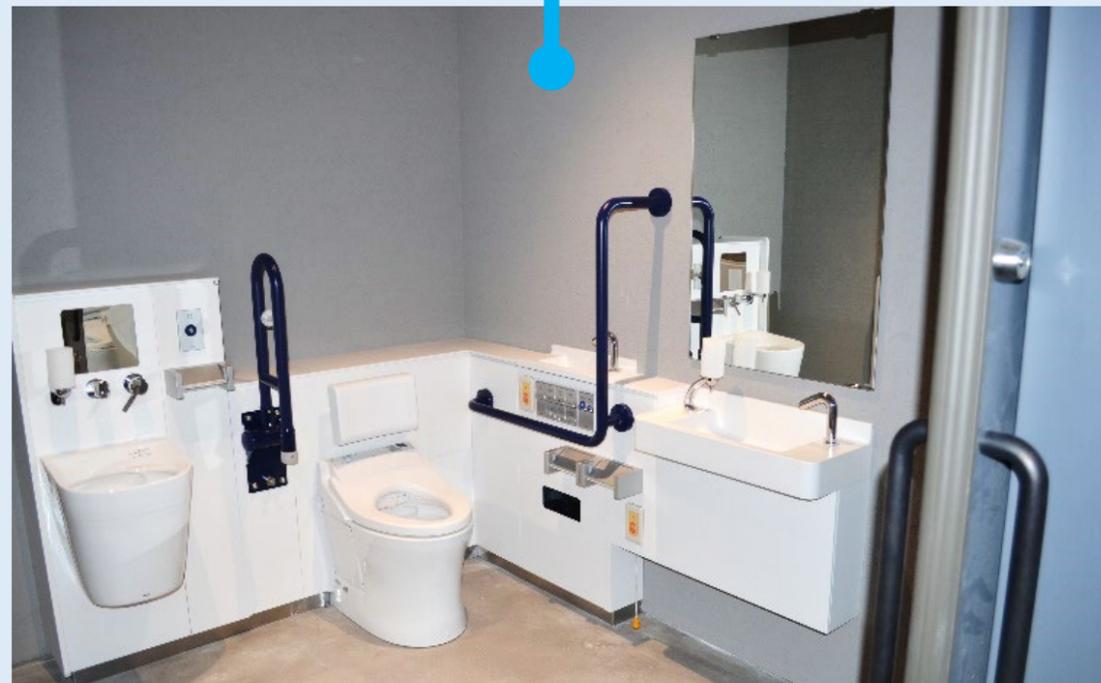
女性トイレ(ベビーチェア付き便房)



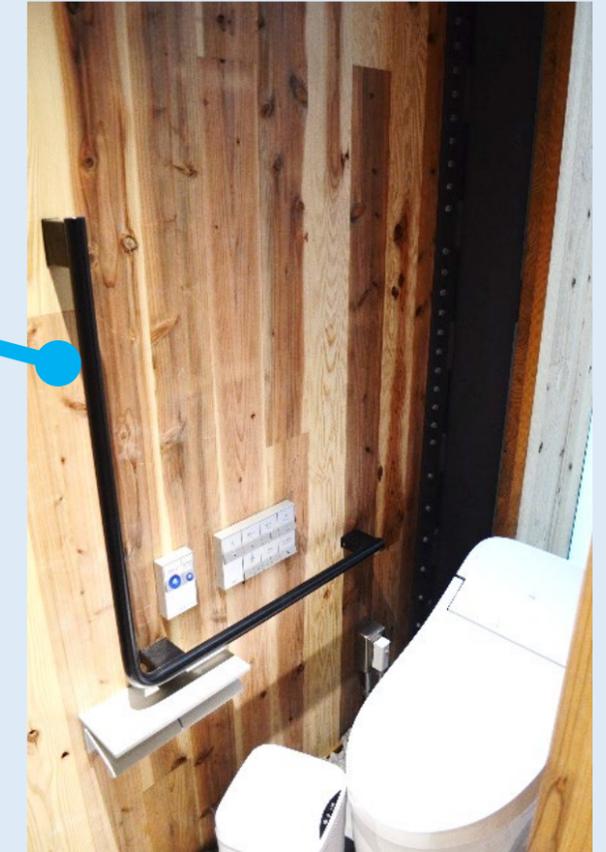
女性トイレ(手すり付き便房)



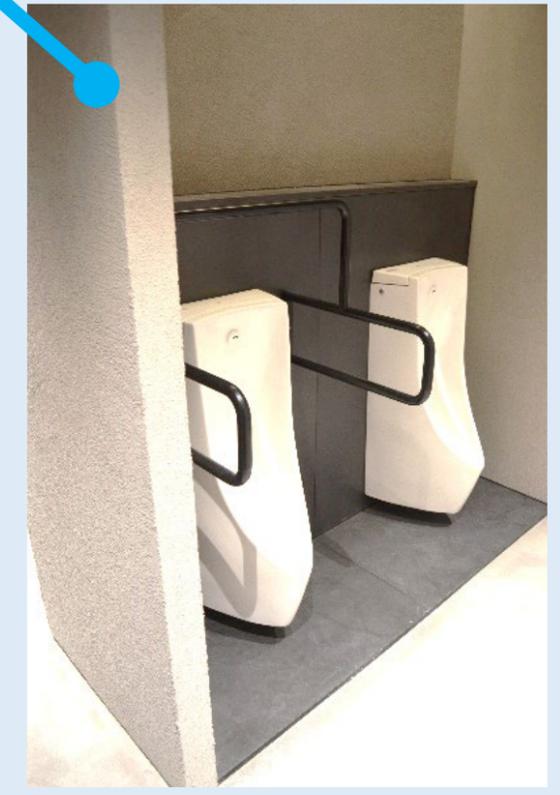
バリアフリートイレ



男性トイレ(手すり付き便房)



男性トイレ(小便器)



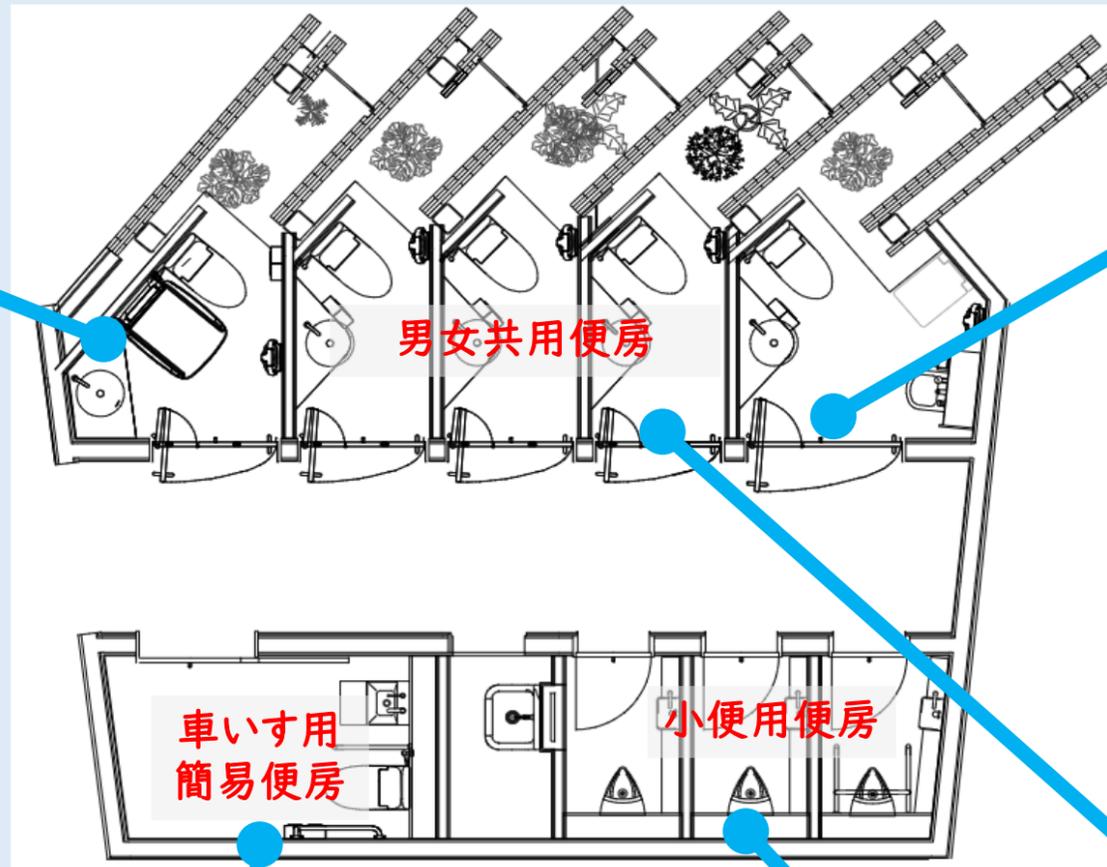
検証における意見と施工段階への反映

ゾーンB 個室型トイレ

男女共用トイレ (ベビーベッド設置: 左端)



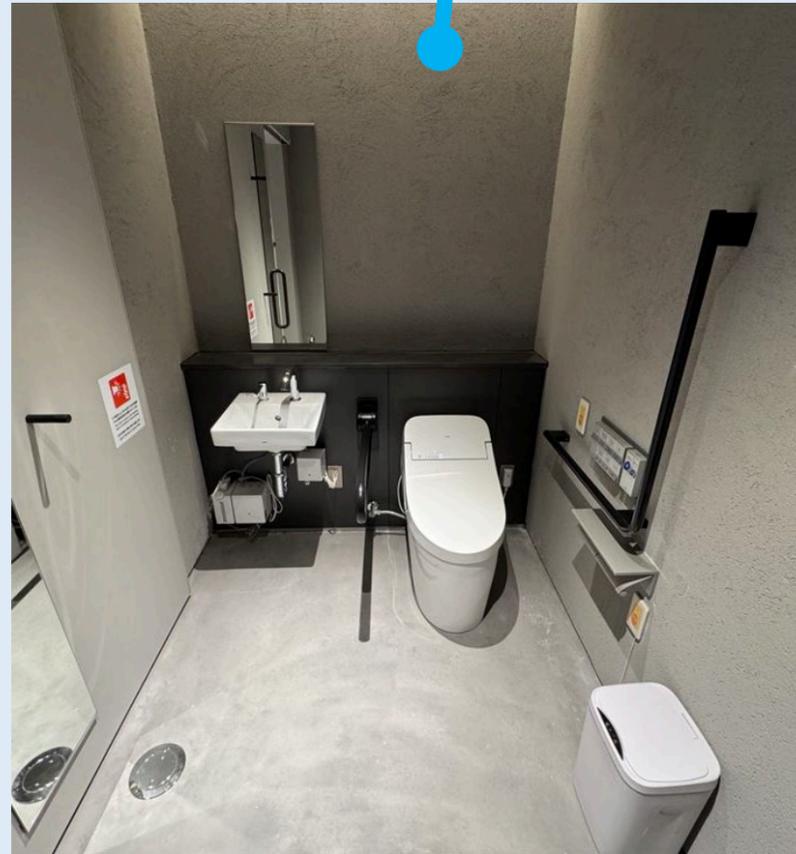
通路 (奥に向かって)



男女共用トイレ (ベビーカー対応: 右端)



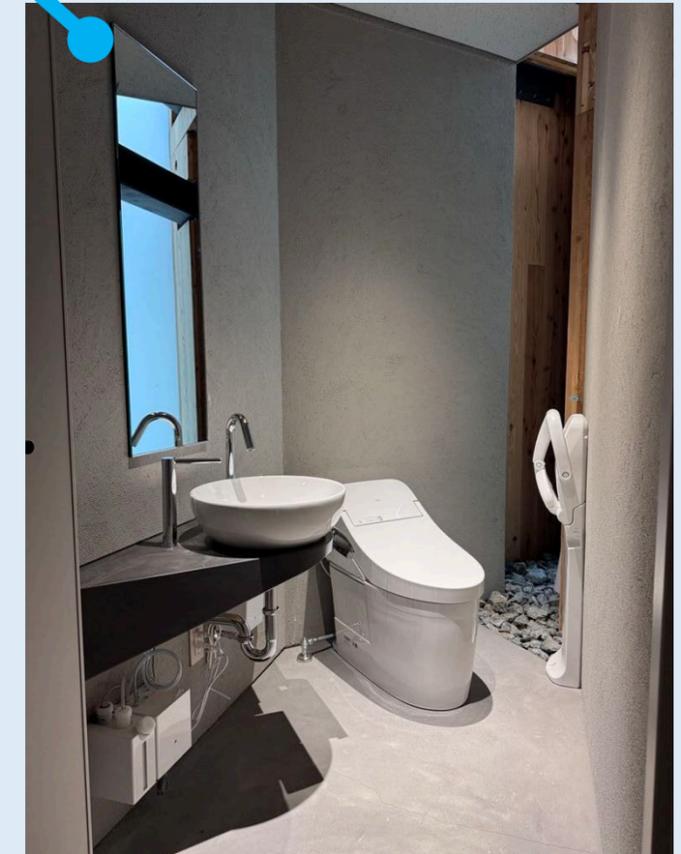
車いす用簡易便房



小使用便房



男女共用トイレ (中央)



検証における意見と施工段階への反映

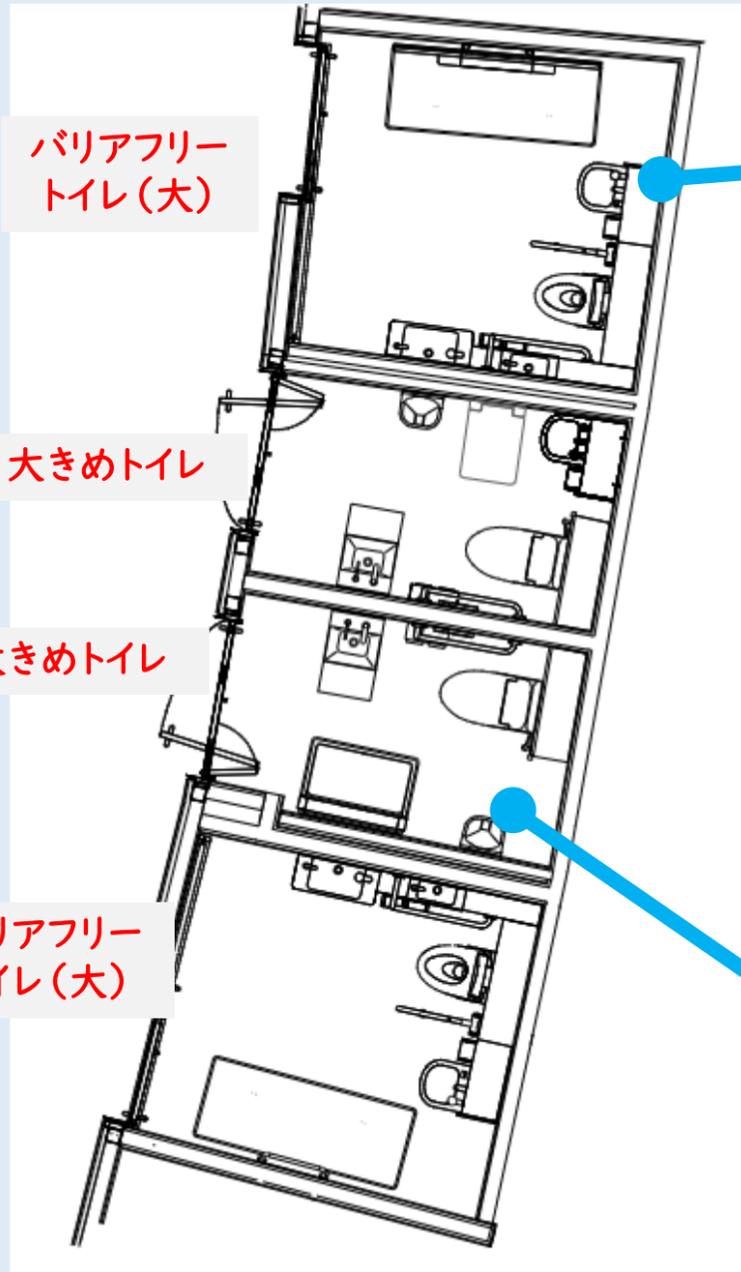
ゾーンD:大きめトイレ

バリアフリー
トイレ(大)

大きめトイレ

大きめトイレ

バリアフリー
トイレ(大)



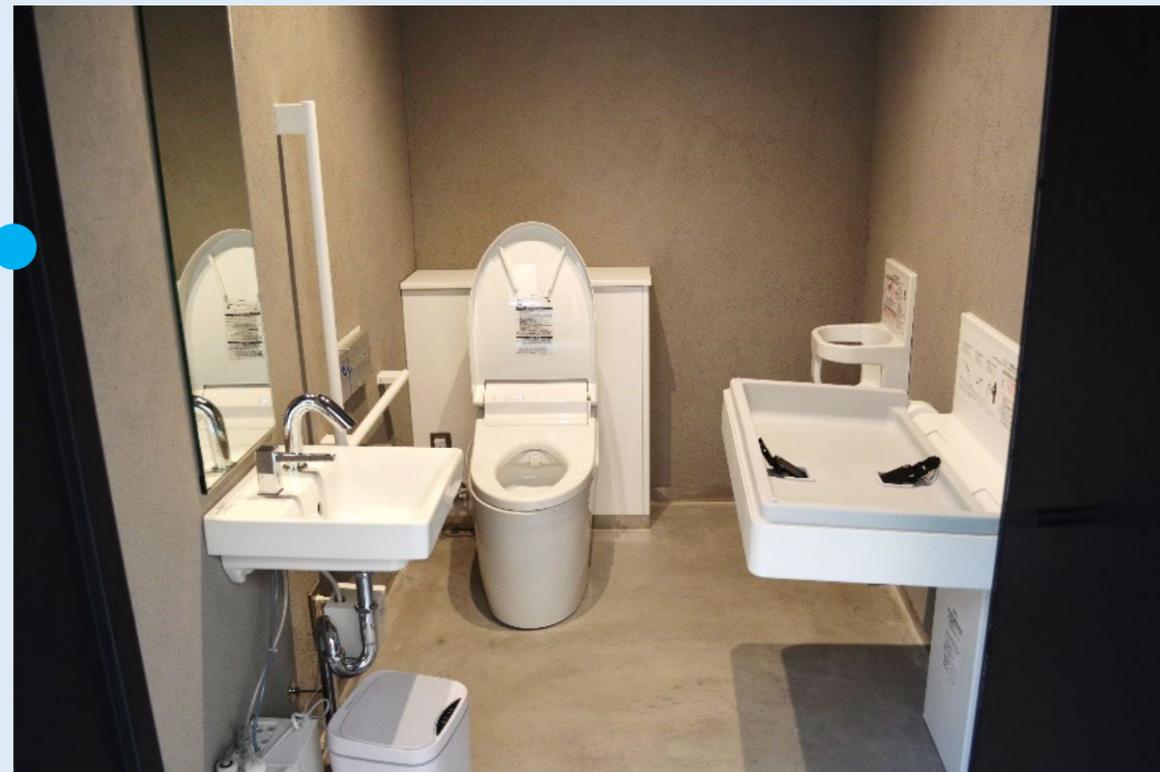
バリアフリートイレ(大)



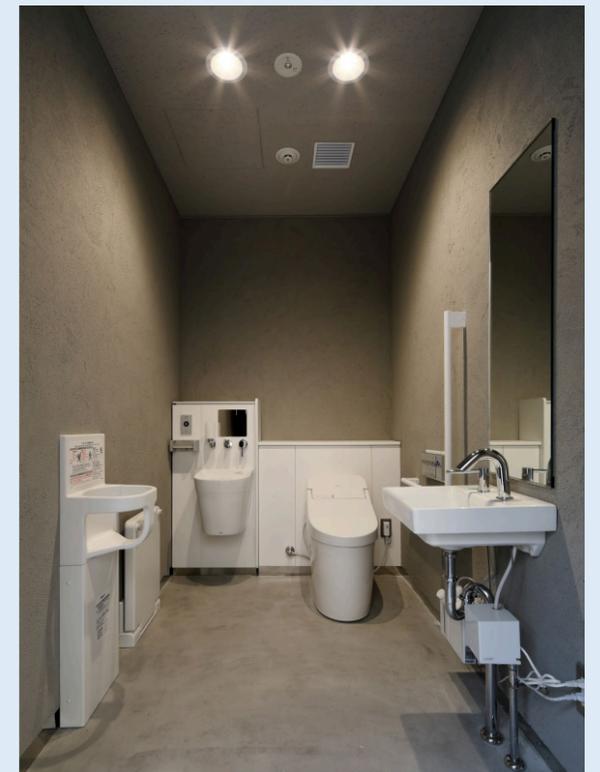
トイレ前通路(屋外回廊)



大きめトイレ(ベビーベッド設置(写真は開いた状態))



大きめトイレ(ベビーチェア)



検証における意見と施工段階への反映

ゾーンD

<ファミリールーム>

カームダウン/クールダウンルーム



カームダウン/
クールダウンルーム
(部屋の明かりを暗く
した場合)



カームダウン/
クールダウンルーム



授乳室入り口



奥の授乳スペース
(出入口は鍵がかけられる
アコーディオンカーテン)



授乳室



検証における意見と施工段階への反映

2) 意見と施工内容

●手洗いの手すりの間隔

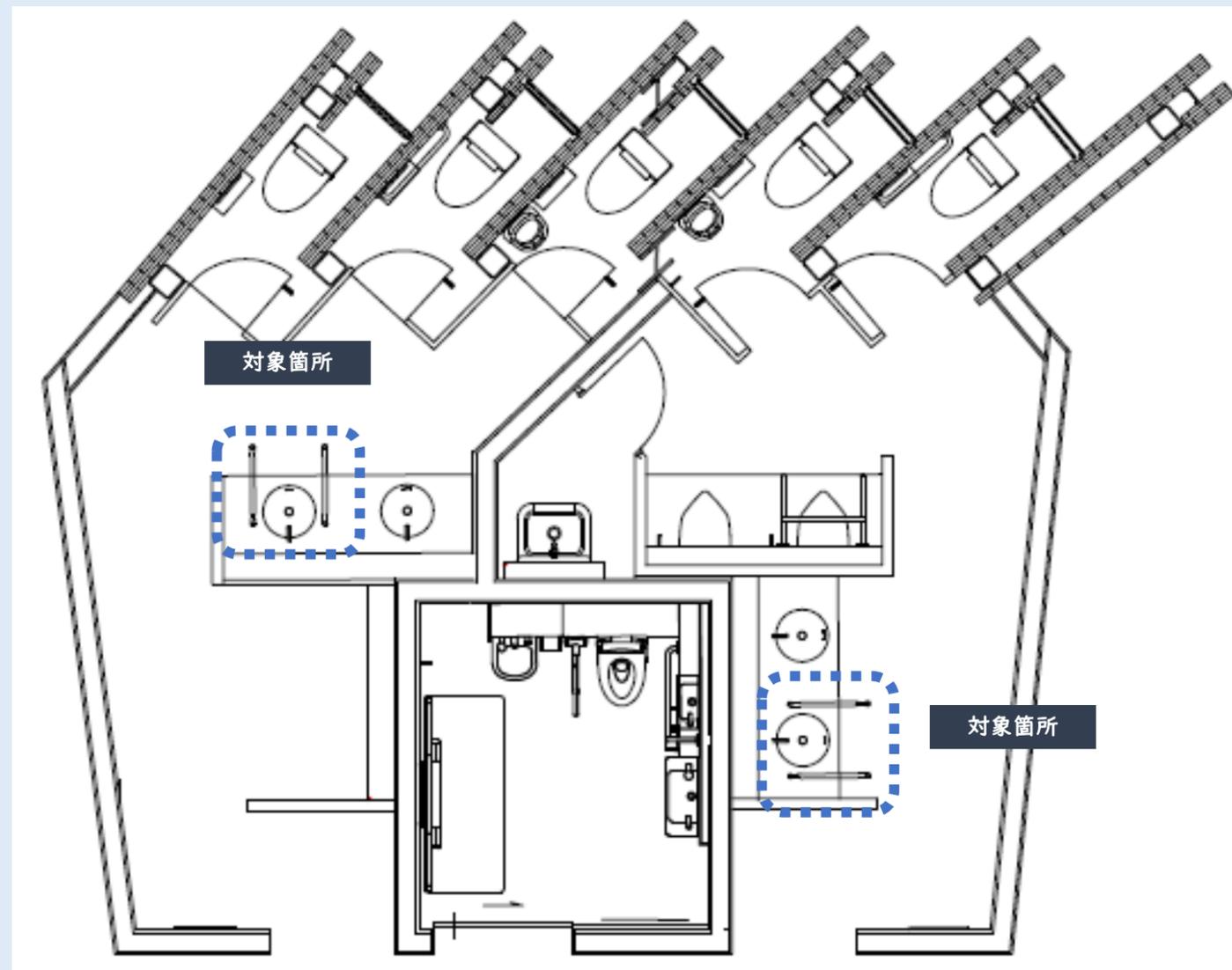
ポイント:標準の手すりの間隔を狭めて、上肢が不自由な人が使いやすいようにした

施設・設備等	ご意見	施工内容(UDへの配慮事項)
手洗い手すり	・肢体不自由者はカウンターに肘をつきながら手を洗うため、ベッセル式洗面器だと縁が当たって痛い	・ゾーンA/Cトイレの手すりがある手洗い器については寄りかかって肘をつけるように改善。 ・当初案は手すり幅が700~800mmであり、肘をつくと蛇口に手が届かないことから手すりの幅を550mmに変更し、肘を支持できるように改善。

■改良点(UDの工夫)

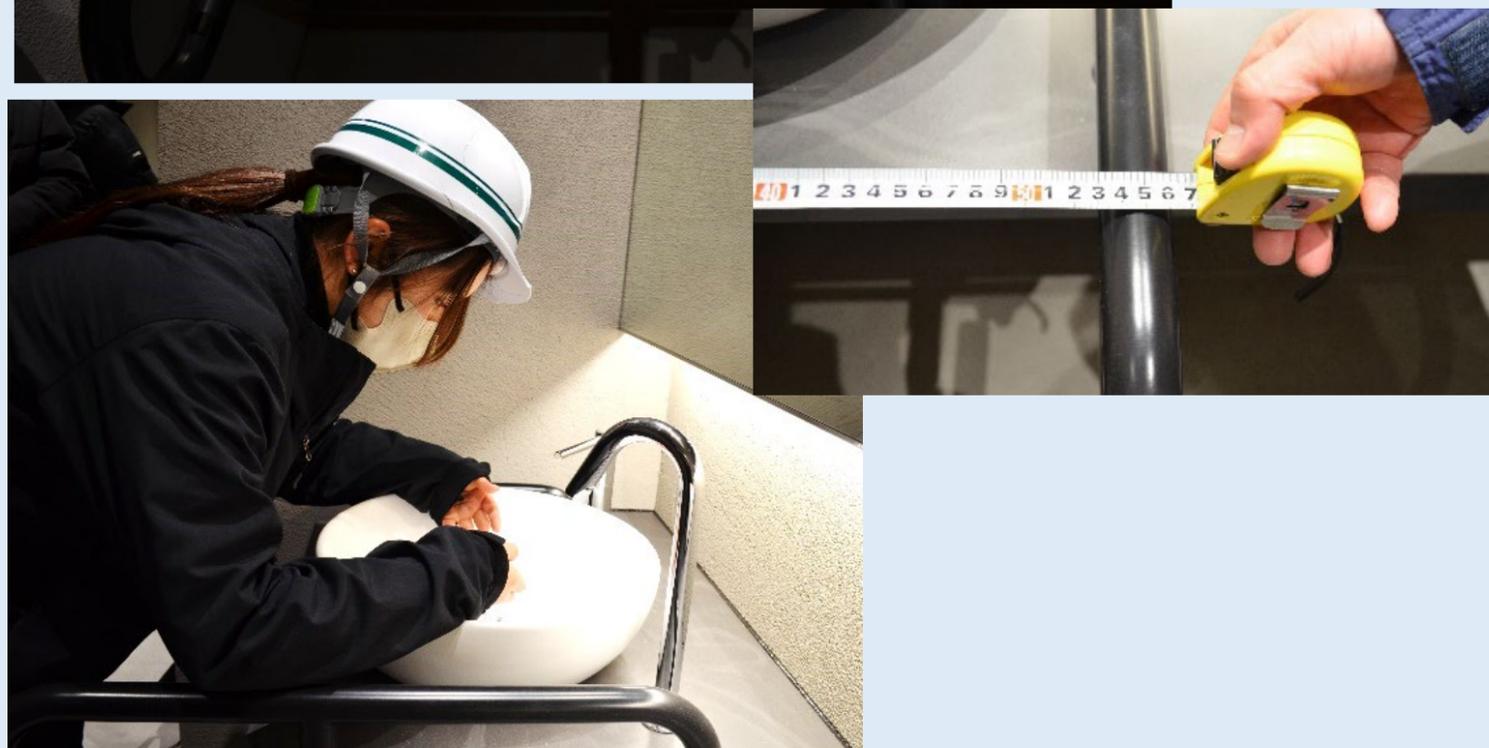
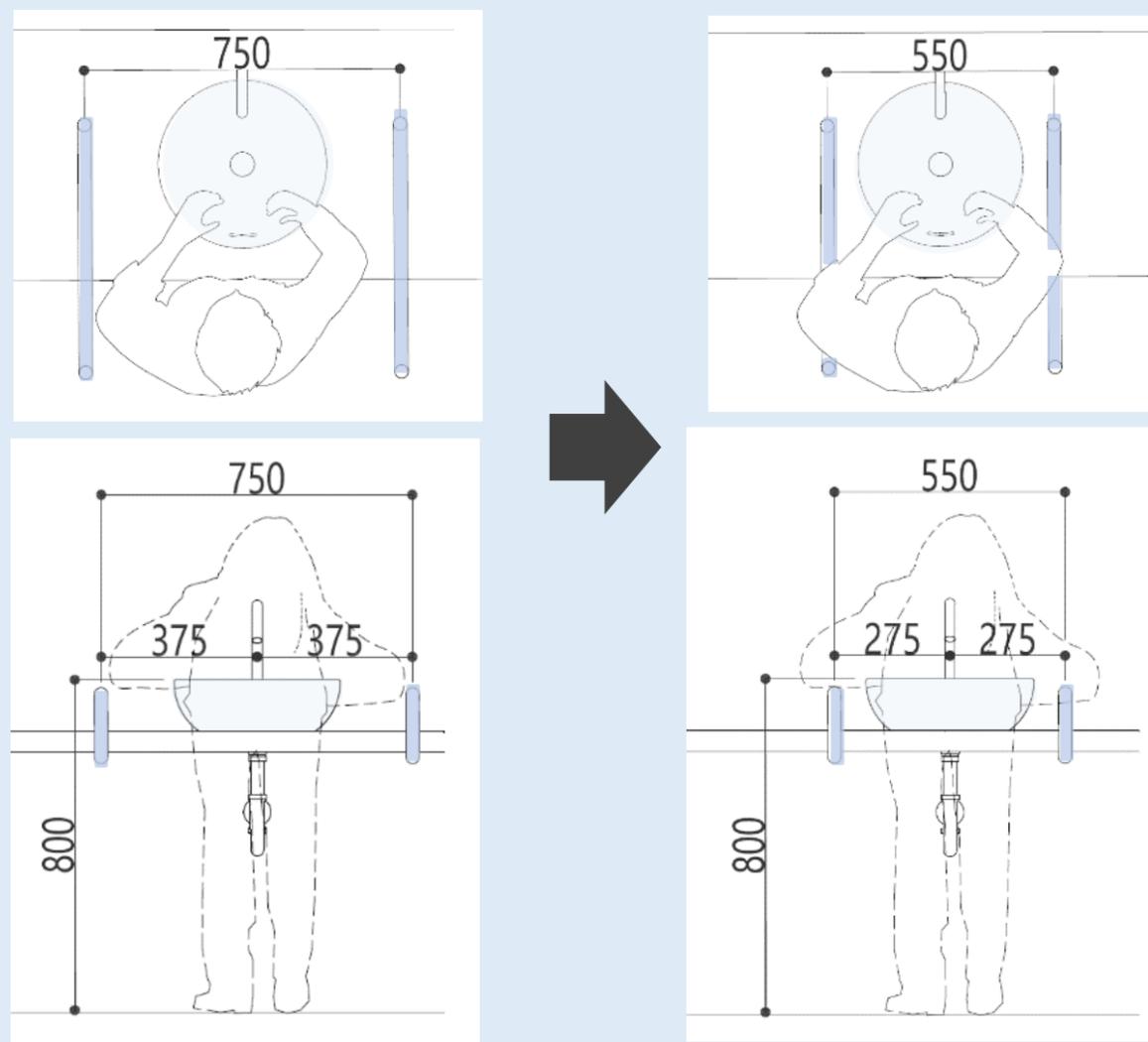
<対象箇所>

ゾーンA/C 従来型のトイレ



検証における意見と施工段階への反映

●手洗いの手すりの間隔



■設計・施工上の工夫(※調整ごと、苦労したこと)

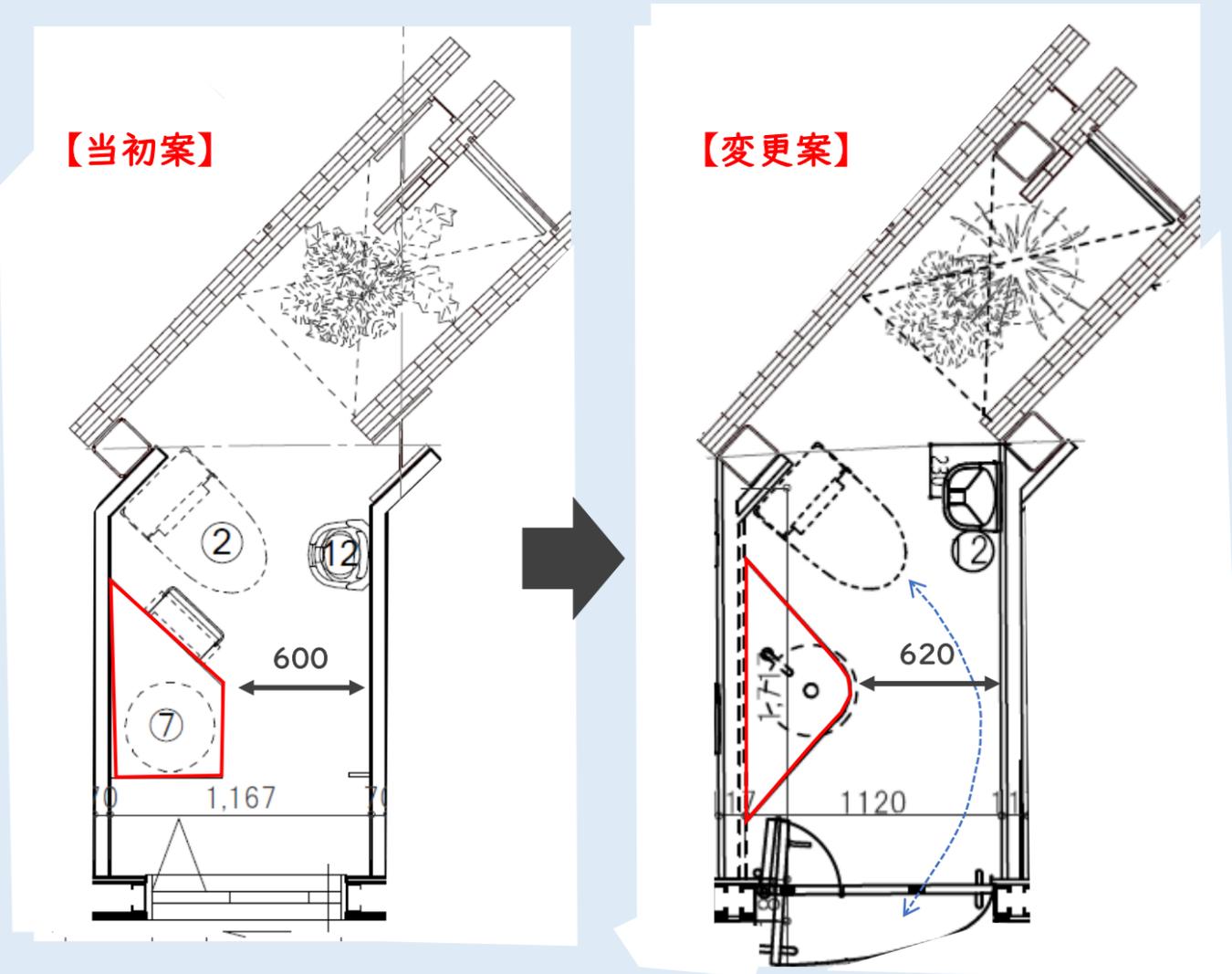
・一般的なトイレ洗面器の手摺幅は700~800程度が採用されている。縮めるにあたり、実際にモックアップで550mmが問題なく使いやすいことを確認し採用した。

検証における意見と施工段階への反映

●個室型トイレ 手洗いカウンターの形状

ポイント:カウンターの形状を変更し、トイレブース内の通路幅を確保して使い勝手を良くした

施設・設備等	ご意見	施工内容(UDへの配慮事項)
手洗いカウンター	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンターが大きく、通行の妨げになる ・カウンターの角が身体や子どもの頭部に当たる危険性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いカウンターの形状を台形から三角形に近い丸みのある形に変更して、トイレブース内の使い勝手を良くする



■設計・施工上の工夫(※調整ごと、苦労したこと)

- ・扉からの便器への経路に合わせ角をなくすデザインとした。
- ・洗面器が置ける最小のカウンターサイズに調整し通路幅をしっかり確保。



検証における意見と施工段階への反映

● バリアフリートイレ内の大型ベッド、照明、鏡

ポイント: バリアフリートイレ内の設備についてニーズに応じた、きめ細かな対応を行っている

施設・設備等	ご意見	施工内容(UDへの配慮事項)
大型ベッド	・折り畳み式ベッドは車いす利用者は操作できない。	・操作しやすい跳ね上げ式に変更。
照明(フラッシュランプ)	・ベビーベッドの直上に照明があると乳幼児の目に直接光が入ることが懸念される。	・光が直接目に入らない位置に調整。
鏡	・車いす利用者も全身が見える鏡を設置してほしい。	・車いす対応便房に姿見を設置。(計5箇所)



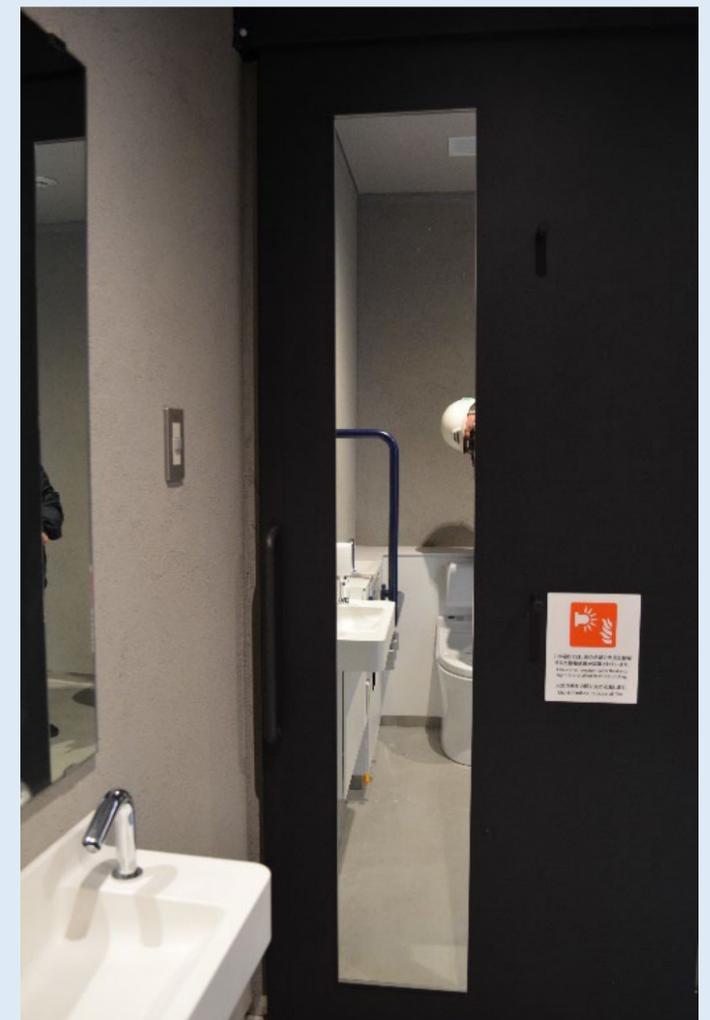
大型ベッド
(ゾーンD:バリアフリートイレ)



フラッシュランプをベッド位置からずらして設置



出入口の扉に取り付けた鏡
(ゾーンD:バリアフリートイレ)



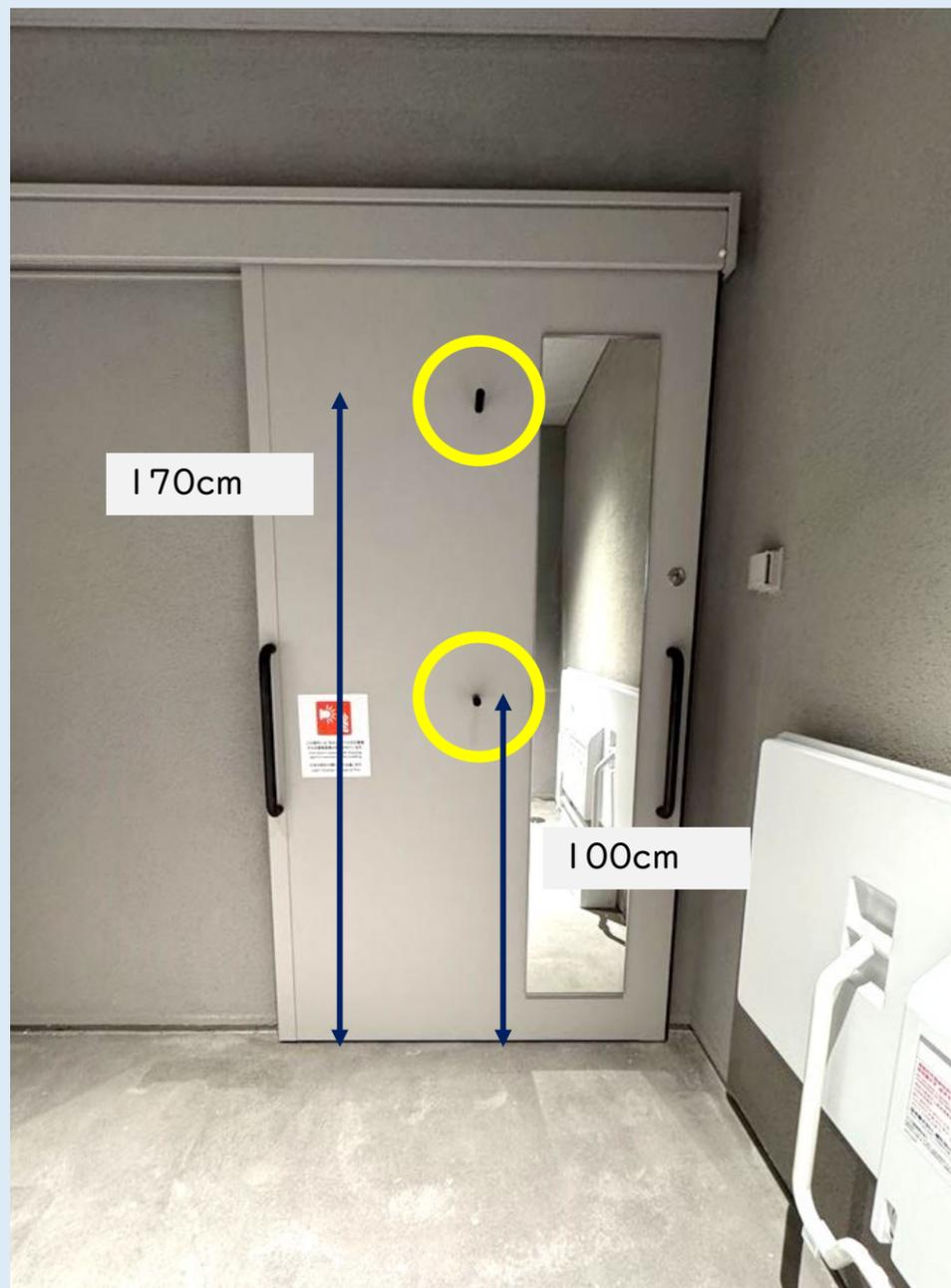
検証における意見と施工段階への反映

●バリアフリートイレ内のフック

ポイント:バリアフリートイレ内の設備についてニーズに応じた、きめ細かな対応を行っている

施設・設備等	ご意見	施工内容(UDへの配慮事項)
フック位置	<ul style="list-style-type: none">・出入口付近にあると使いやすい(目が不自由な方も慣れている)。・当たっても危なくないフック形状が良い。	<ul style="list-style-type: none">・出入口扉のブース内側に統一して設置。・安全に配慮した形状とする。

フック設置位置



フックの形状(先が円筒状のゴム)



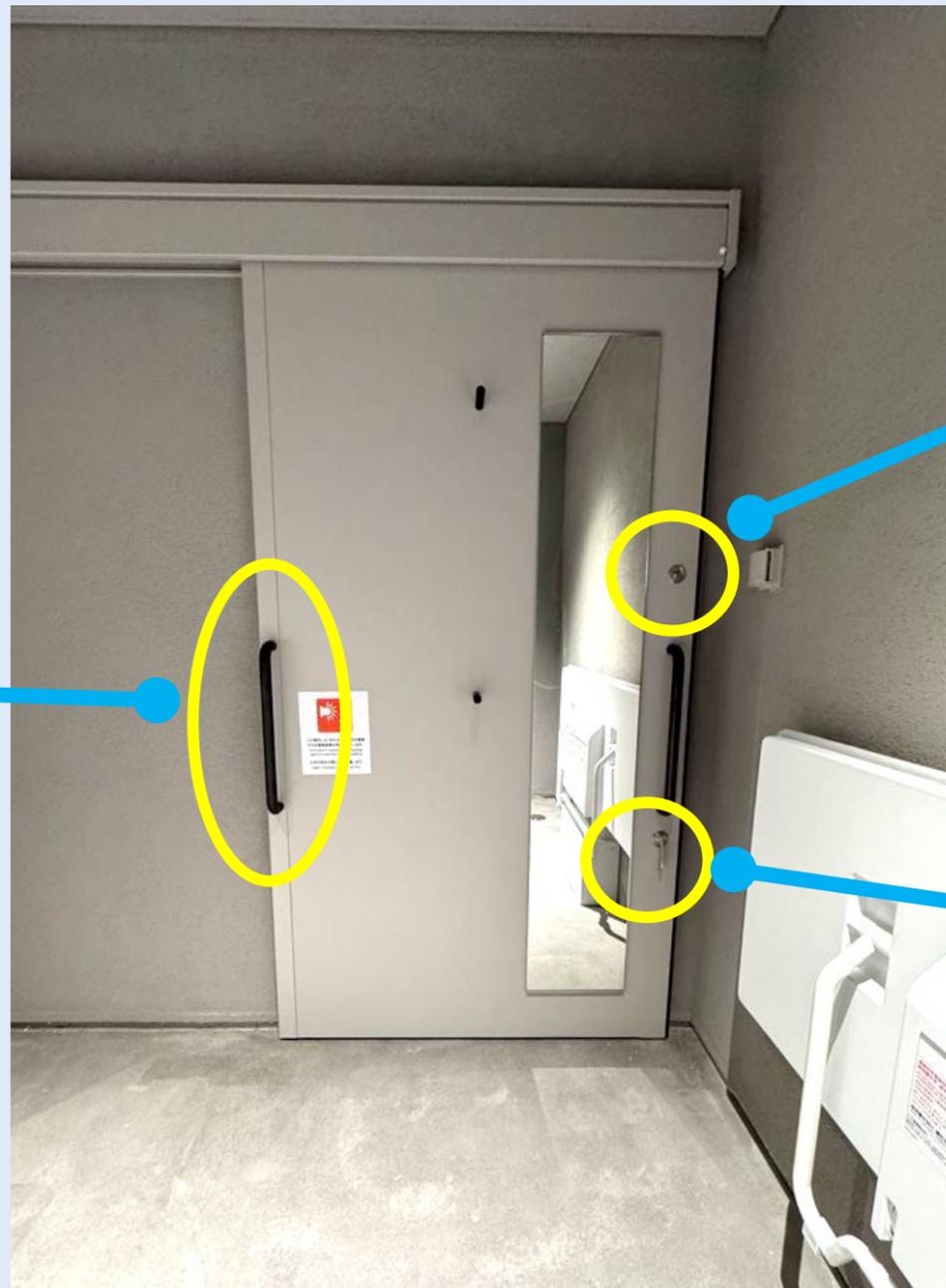
検証における意見と施工段階への反映

●バリアフリースイートの扉

ポイント: 軽い力で開けやすく、全開時ストッパーや補助手すりで車いす利用者等が操作しやすい扉としている

施設・設備等	ご意見	施工内容 (UDへの配慮事項)
扉	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす対応便房の引き戸には全開時ストッパーはついているのか。 ・扉はなるべく軽い力で操作できることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全開時ストッパーあり。 ・軽い力 (UDガイドラインの30N以下) で開閉可能。 ・大きめトイレやバリアフリースイートなどは子供があけないよう2段の鍵を設置 ・バリアフリースイートの内部側に補助手すりを設置。

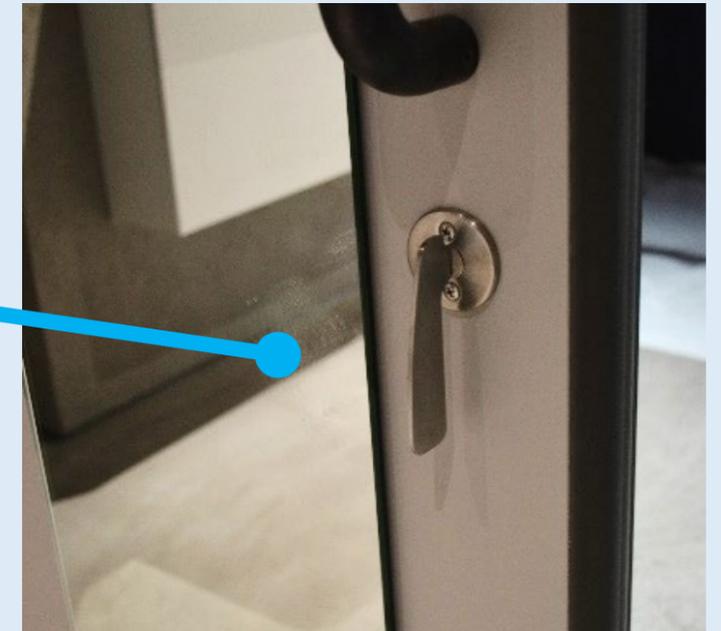
バリアフリースイート (ゾーンA) の扉



鍵の形状 (上): サムターン



鍵の形状 (下): 鎌形



補助手すり



検証における意見と施工段階への反映

●壁付リモコン類と壁のコントラスト

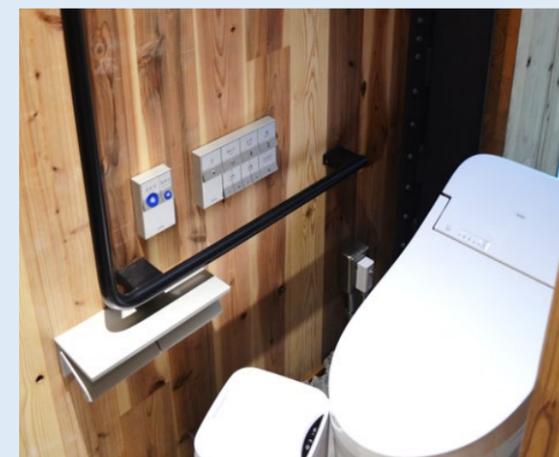
ポイント: 弱視者の視認性を高めるために設置場所ごとに色のコントラストが高まるように工夫

施設・設備等	ご意見	施工内容 (UDへの配慮事項)
壁付リモコン類と壁のコントラスト	・もう少しリモコン類と壁色にコントラストをつけてほしい。	・同系色をやめ、リモコン背景をA=茶系 B=ダークグレー C=白の3種類で整理を行いリモコンの認識がしやすいようにした。



WS時のコントラスト

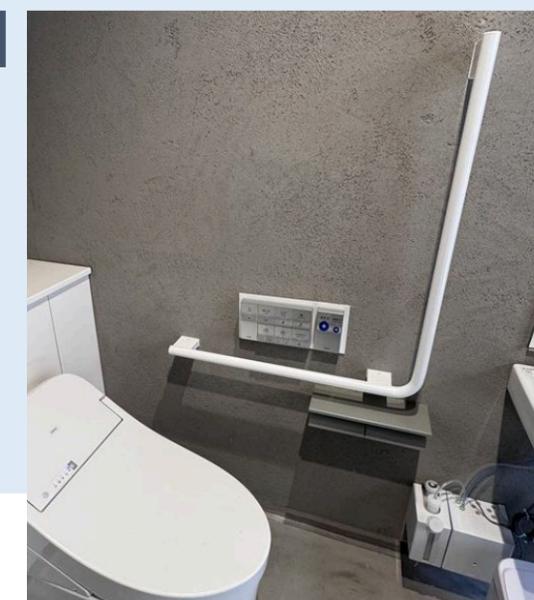
A 背景を茶系とする(従来型トイレ等)



B 背景をダークグレーとする(個別トイレ等)



C 一般的な多目的トイレと同じ仕様とする(多目的トイレ等)



■設計・施工上の工夫(※調整ごと、苦労したこと)

- ・白やシルバーとのコントラストがはっきりするようBは濃いめのダークグレーを選定した。
- ・一部同系色の背景となりそうな箇所はプレートを製作しBorCのコントラストを確保できるよう調整した。

検証における意見と施工段階への反映

● 光警報装置（フラッシュランプ）の位置

ポイント: トイレのどこにいてもフラッシュランプの点灯を視認できる位置に設置

施設・設備等		ご意見	施工内容 (UDへの配慮事項)
非常用フラッシュランプ (光警報装置)	光の点滅の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・設置位置について、ブース内だけではなく通路にも設置が必要。 ・外光に負けて光警報に気づかないのでは。光度や目に入る位置の検討が必要。 ・光が強いと見にくい人もいる。フェードアウト・フェードインできるような光があれば良い。 ・光の点滅の意味が理解できるように、字幕など文字情報とセットで非常時であることを示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレブースと通路、カームダウンクールダウンルーム、授乳室にフラッシュランプを設置。 ・柔らかく光るフラッシュランプは現時点存在しない。 ・非常時にはスタッフによる避難誘導がなされるため、文字情報による表示は行わない。 ・フラッシュランプ点灯の説明文を掲示。

フラッシュランプ設置場所



フラッシュランプ点灯の説明文

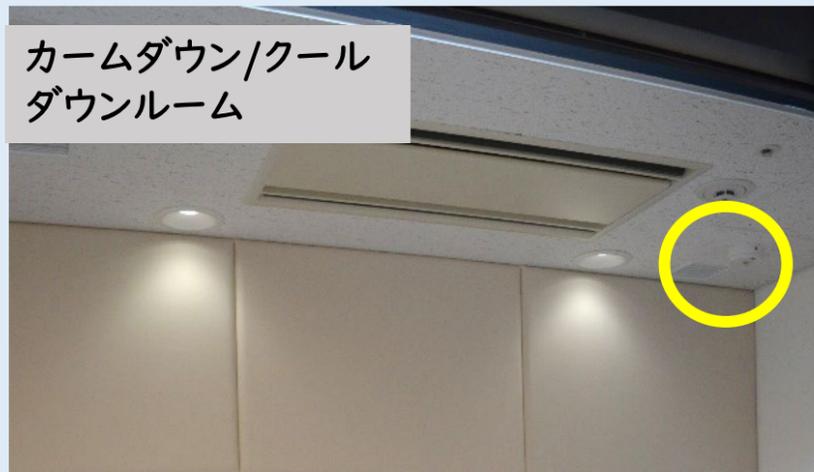



この場所には、光の点滅で火災を警報する光警報装置が設置されています

Fire alarm system with flashing light is installed in this building

火災の発生の際に光が点滅します

Light flashes in case of fire



検証における意見と施工段階への反映

●カームダウン・クールダウンルーム

ポイント:誰もが安心して日本館を楽しめるように落ち着ける場所を提供。

人混み、音や光等、環境の状況によって不安や恐怖等を感じ、パニックを起こしやすい人たちが、安心して日本館を楽しむために、カームダウン・クールダウンルームを設置している。整備においては、当事者意見を反映して下表に示す仕様としている。

施設・設備等	ご意見	施工内容(UDへの配慮事項)
内装の仕様	・壁は緩衝材のような柔らかい素材にしてほしい。	・柔らかいクッション材を採用。色はウォーム系の薄いグレーとする。
照明	・調光ができる照明を設置してほしい。	・部屋の利用者が調光可能な照明を設置。

出入口付近



内装



部屋の明かりを暗くした場合

